

南洋志

2924  
N98  
⑦

026778-000-5

292.4-N98ウ

南洋志

野沢 藤吉 / 編

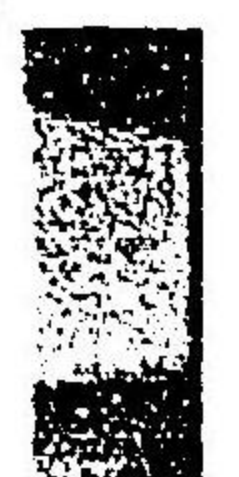
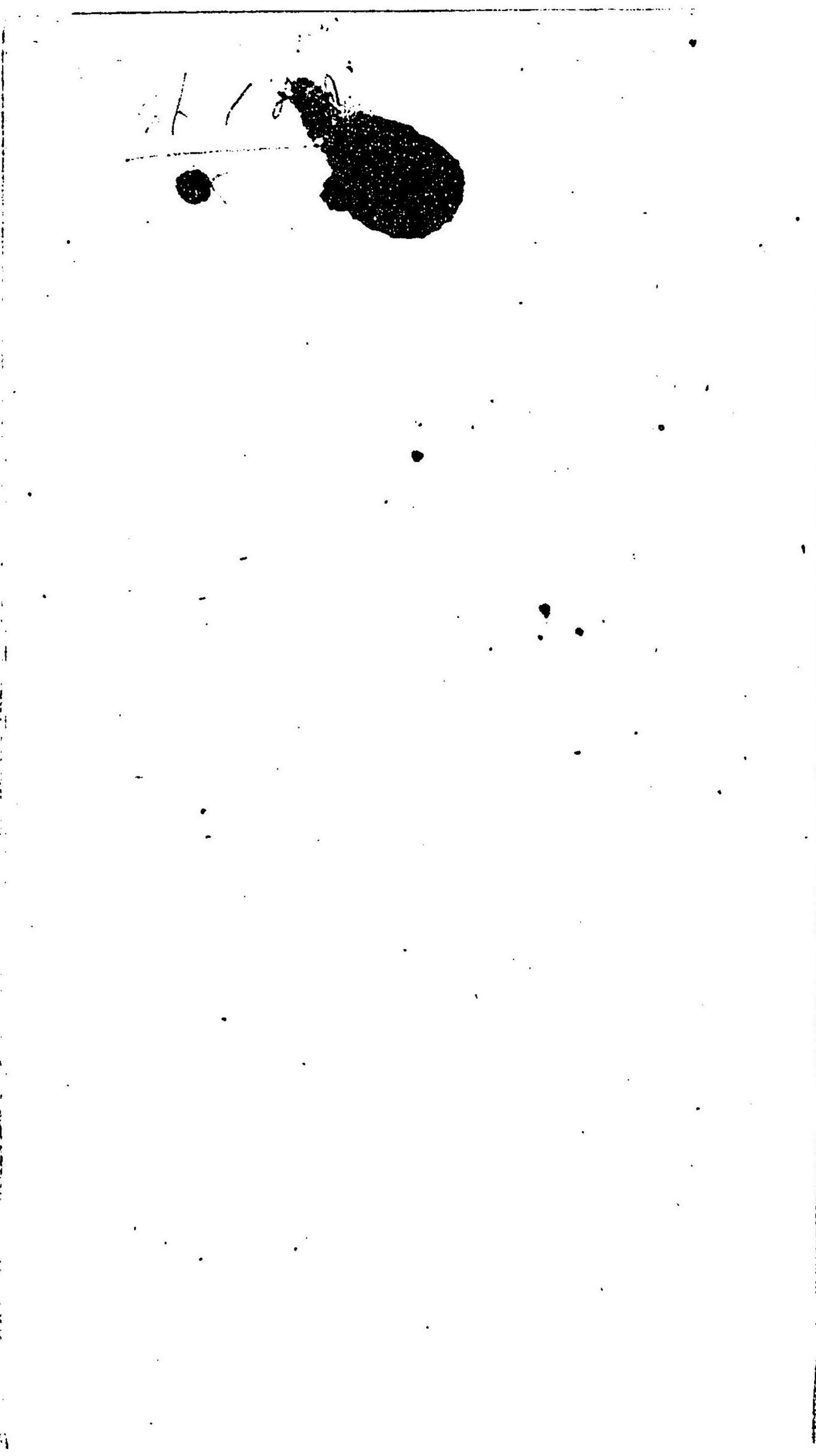
M23

ADD-0479



25.10.27

南洋志



51/88  
18-460  
No 4189  
292.4  
N 98



凡例

一 此書ハ巽ニ鈴木經勳君カ南洋諸嶋ヲ巡航シ多年探檢セシ實況ヲ親シク編者ニ説話セシモノニシテ其間編者カ平生懐抱セル意見ヲ述ヘタルナリ

書中載スル所ノ地名人名物名等世間普通ノ符號ヲ附シ之ヲ分ツ

此書ハ編者カ多忙ノ際倉卒筆ヲ執リシヲ以テ編纂其体ヲ失フノ譏固ヨリ免レス況ヤ行文ノ雅俗混交ヲ省スルニ暇アラサルヲ以テ然レモ單ニ南洋ノ現情ヲ述ヘテ之ヲ世ノ起業家ニ訴ルノ切ナル讀者請フ其意ヲ取ツテ其体裁ヲ措テ可ナリ

編者識

南洋志目錄

第一章	總論
第二章	諸嶋ノ位置
第三章	火山群嶋
第四章	無人諸嶋
第五章	有人嶋
第一	バラウラー群嶋
第二	全島ノ産物
第三	全島土人ノ風俗
第六章	瑪助查爾群嶋
第一	オッジャ諸嶋

- 第二 ナーモ諸嶋
- 第三 コワジレン諸嶋
- 第四 ウーチャエ諸嶋
- 第五 ラエ諸嶋
- 第六 瑪照查爾群嶋ノ氣候并ニ晴雨ノ多少
- 第七 地質ノ厚薄及草木ノ種類
- 第八 政治法律及官制宗教
- 第九 土人ノ曆日
- 第十 土人ノ婚姻
- 第十一 土人ノ疾病醫藥及葬式
- 第十二 土人ノ文身法
- 第十三 土人衣食住及習慣

- 第十四 土人木燧法
- 第十五 土人入肉ヲ食スル法
- 第十六 土人ノ航海
- 第十七 土人ノ漁獵
- 第十八 土人ノ歌舞
- 第十九 土人ノ戰爭
- 第二十 土人ノ盜賊
- 第二十一 土人ノ文字及言語
- 第二十二 嶋主ト各嶋酋長トノ干係互ニ其權限
- 第二十三 嶋主ノ即位法及殉死
- 第二十四 現嶋主ノ性質及行爲
- 第二十五 群嶋ノ物産及貿易

目次終

南洋志

淺野自明校  
野澤藤吉編

第一章

總論



余カ友鈴木經勳君去ル明治十七年職ヲ外務ニ奉スルノ際會マルシヤ  
 トル群島ニ於テ吾人同胞ヲ虐殺セルノ事件起レリ時ノ外務卿井上馨  
 公後藤藤猛太郎氏及ヒ君ヲノ航シテ其事實ヲ檢問セシム是レ蓋シ君カ  
 南洋航海ノ第一着歩ニシテ而シテ其大ニ意ヲ南洋諸嶋ニ注クニ至リ  
 亦此行ヲ在ト謂フヘシ竊ニ君ノ使事ヲ終ヘテ復命スルヤ雄圖  
 勃々自ラ禁ホシ能ハス乃官ヲ辞シ資ヲ投シ再ヒ南洋ニ航シ爾來熱帶  
 圈裡ニ起臥スルコト殆ト五星霜或時ハ海波渺々極目限リナキノ大洋  
 ニ鯨鱈ノ群ヲ馳リ或時ハ瘴煙迷迷心緒慘々タル荒野ニ橋葉衣ニ換ヘ



備ニ探檢ヲ終ヘテ歸ル、去年八月、君又金剛艦ニ搭シ布哇及撒莫要ニ航  
ス、去ルニ臨ミ、吾人ニ話スルニ、君カ多年南洋ニ經歷セシ實況ト所見ト  
ヲ以テ、轉タ吾人ヲノ恍然其區寰ニ往來セシムルカノ感アラシム、嗚  
呼吾人モ亦久シク南洋諸嶋ニ着目注意スルモノナリ、是ニ於テ乎、君ニ  
聞ク所ヲ記シ、併セテ吾人カ平生南洋ニ對スル意見ヲ附シ、茲ニ之レヲ  
世ニ公ニスル事トハナリタリ  
蜻蜓州ノ南、赤道線ヲ横截スル、煙波九萬里、鵬程杳渺ノ間、無數ノ嶋嶼小  
ナルモノ數哩大ナルモノ數十哩、三三五五、遠ク近ク、欽峙星羅セル、其狀  
恰モ鯨ノ躍ルカ如ク、鷗ノ眠ルカ如ク、以テ南北兩洋ノ航路ヲ連接シ、直  
ニ濠州新西蘭ノ大陸ニ通セル、之ヲ南洋諸嶋ト稱ス、而シテ今鈴木君ノ  
探檢ヲ遂ケタル部分ハ、本邦小笠原群島ノ南、微西、北緯二十五度四分、東  
經百四十七度三十分ノ間ニ在ル火山群島ヨリ始マリ、漸ク進ンテ、北緯

四度東經百六十一度ノ位置ニ散在セルマルシャール群島ニ至リテ終  
ル、這般諸群島中、僅ニ人口ノ繁殖セルモノハ唯バラウオー、マルシャー  
ルノ二群島アルノミ、見ヨヤ其風土ノ特異ナル、其人種ノ醜惡ナルヲ、マ  
ルシャールノ蠻民カ、他邦漂泊ノ人ヲ屠殺シテ、其肉ヲ藏匿シ、半夜人定リ  
回顧寂々タルノ頃、舌ヲ鼓シテ之ヲ食ヒ、燐火青青其物凄キ有様ハ、彼ノ  
有名ナル以太利ノ詩人マントカ、配所ノ月ニ嘯キ、轉柯ノ筆端ニ激發セ  
ル、地獄物語ニ所謂、ヒヤノ高官アゴリノガ、北洋冰中ニ於テ、生前ノ仇ニ  
邂逅シ、腦蓋ヲ以テ口角ニ淋漓タル碧血ヲ拂拭セル慘景ヲ目前ニ視カ  
如ク、又バラウオー群島ノ土民カ、朝ニ太陽ノ昇ルヲ見テ、寢ヲ離レ、夕ニ  
星辰ノ輝ヲ仰テ、眠ニ就キ、潺々タル噴泉ヲ掬シ、閑々タル黃鸝ヲ聞キ、悠  
々トシテ其生涯ヲ送ルノ有様ハ、彼ノ有名ナル英國ノ文章家ジョソン  
ン氏カ、究迫ノ眼窩ヨリ反照セル、アピシニヤノ公子ヲセラスカ、春風駘

蕩百花爛熳タル仙洞ノ裡ニ生活セシ、獄狀モ斯ヤト想ヒ、而ノ更ニ各島  
 至ル處地味豊饒ニ鳥飛ヒ魚躍ルノ有様ハ、轉々吾人ヲシテ天福地幸ノ  
 境獨リカンヂス河上ニノミアラサルヲ知ラシム、嗟呼此等無智蠢愚ノ  
 蠻民ヲ教育シ、以テ十九世紀文明ノ德澤ニ浴セシメ、此等無人豊饒ノ區  
 ヲ開拓シテ、以テ漁獵耕耘ノ地タラシムル、豈亦人生ノ一大快事ナラス

今夫一幅ノ海圖ヲ案シテ、讀者ノ活眼ヲ開放セヨ、抑我蜻蜒州ハ、北緯廿  
 四度六分ニ始リ、同五十度五十八分ニ終リ、東經百二十二度四十五分ニ  
 起リ、同百五十五度三十分ニ盡キ、琉球ノ西南端與那國島ヨリ、千島ノ東  
 北端守占島ニ至ル迄、延長大約三千餘哩、蜒々トシテ長蛇ノ如ク、近ク清  
 滿ノ大陸ヲ負ヒ、遙ニ南洋ノ諸島ヲ抱ケリ、是ヨリ南赤道線ニ至ルノ間、  
 蒼茫タル洋海ハ、恰モ園裡ノ池沼トモ謂フヘク、点点タル島嶼ハ、恰モ池

中ノ假山トモ見ルヘク、躍ル者翔ル者ハ、恰モ養飼ノ魚鳥ナリトモ稱ス  
 ヘキナリ、然リ而シテ吾人ハ這般ノ園裡ニ向ツテ未タ一ノ殖民地、一ノ  
 開拓地、一ノ所有權タモ有セス、嗟何ソ吾人ノ迂且ツ緩ナルヤ、見ヨ敏捷  
 ナル大膽ナル、彼レ歐米人ヲ、彼等ハ數萬里ノ洶濤ヲ渡リ、幾千ノ艱難ヲ  
 冒シ、寒暖顛倒ノ域ニ往來シ、廢棄ノ境ニ、無主ノ邦土ヲ拓キ、意外ノ地ニ、  
 天然ノ寶庫ヲ求メ、汲々トシテ休止スルナク、猛鷄ノ旗、此ニ翻リ、吼獅ノ  
 章、彼レニ舞ヒ、撒莫亞屢侵害セラレ、布哇漸ク輕侮セラル、滔々タル南洋  
 ノ天地、殆ト以テ彼レ歐米人ノ蹂躪割據スル所トナレリ、吾人靜夜ニ之  
 ナ回思スレハ、正ニ是レ他山ノ豺狼、吾人ノ睡夢ヲ時トシ吾人カ橋壁ヲ  
 破リ、吾人カ庭園籬畔ノ鳥魚ヲ攫取スルカ如キ、感ナキ能ハサルナリ  
 試ニ思ヘ佛國ノ頻リニ各諸島ヲ占領シテ、囚徒ヲ分派スルヲ、西班牙ノ  
 所有權ヲ北緯十四度ニ迄テ擴張スルヲ、獨乙人ノ一度其ノ旗章ヲマル

シヤール群島ニ蹴揚シ、漸ク將ニ爲ス所アラントスルヲ、彼等ハ堪忍不  
屈ノ氣象ニ富メリ、彼等ハ利ノアル所、瘴煙毒霧ノ境ト雖モ避ケサルナ  
リ、苟モ彼等ニシテ各其利ニ從ヒ、其所領ヲ占メ、整然區劃ヲ守ルニ至ラ  
ハ、浩々タル南洋ノ寰裡復尺寸ノ余地ナキヲ見ルノ日モ遠ニアラサル  
ヘシ、此時ニ當リ吾人日本人ハ、能ク如何ナル手段カ、以テ漁獵ノ權利ヲ  
維持スルヤ、若シ這曉ニ達セハ、吾人カ賜賚スル蜻蜓州ノ天勝地形モ、亦  
全ク無功無用ニ歸センノミ、吾人カ地形上現ニ吾人南洋物産ノ費消者  
タル清國、尙後來ニ向テノ費消者タル滿州、西比利亞ノ地モ、亦將ニ他方  
供給者ノ、幅湊繁華スル所ノ市場タランノミ、是レ吾人カ比年杞憂ニ堪  
ヘスノ殊ニ本編ヲ草シ、之ヲ我カ同胞ニ訴ヘ、大ニ南洋ノ殖民開拓交通  
ヲ獎勵セント欲スル所以ナリ、嗚呼、レーザンノ嶋微ナリト雖モ、ブル  
クスノ嶋小ナリト雖モ、之ニ殖民シ、之ヲ占領セハ、聊カ以テ未雨綢繆ノ

六

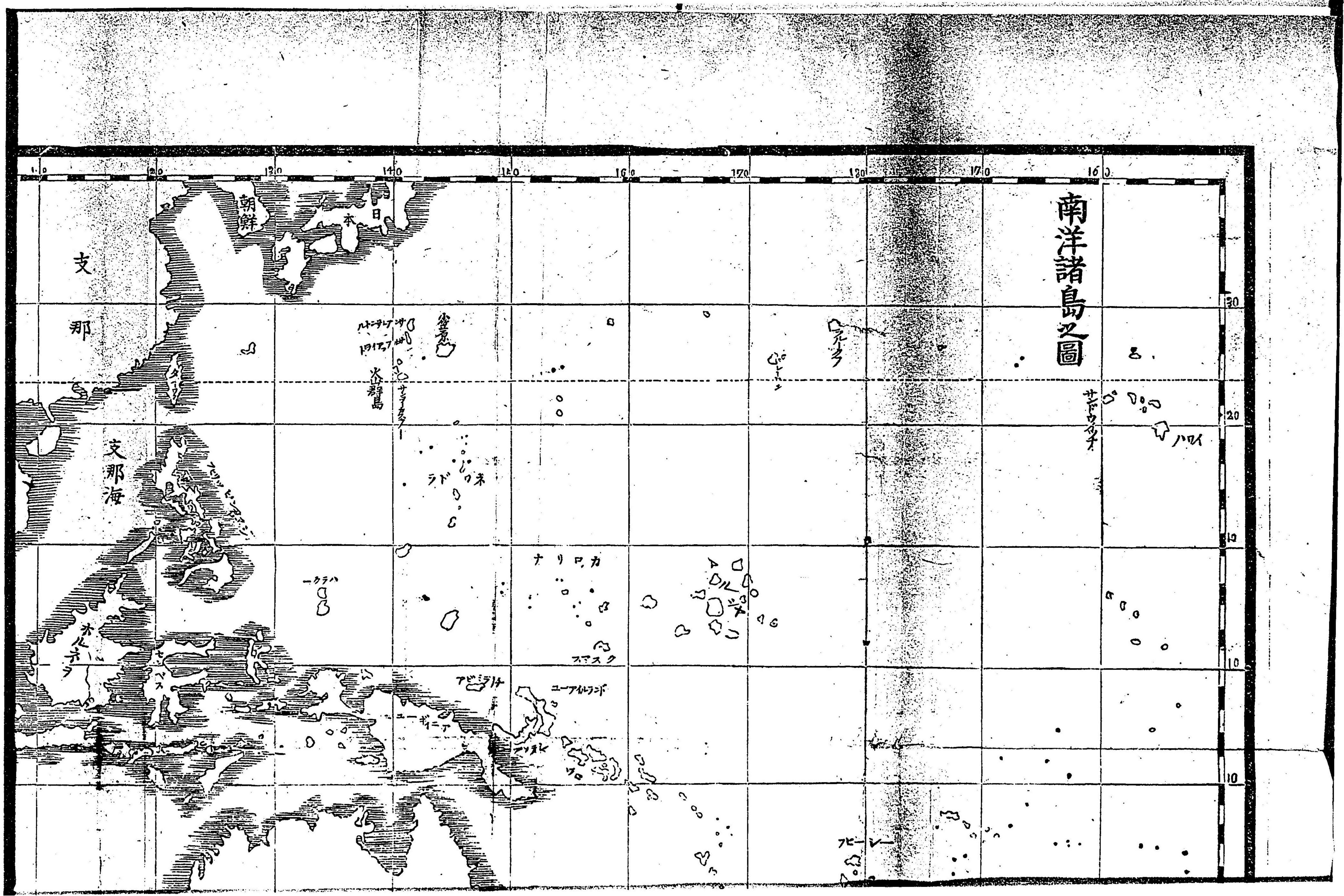
用心タルニタラン乎

然リト雖モ、吾人ハ僅ニ是ヲ以テ満足スル者ニ非ラサルナリ、憶ヒ見ル、  
數百年ノ昔、彼レ今日海王ノ稱ヲ博セル、英國ノ漸ク東印度ニ顧眄シ始  
メタルノ頃、業已ニ吾人ノ祖先ハ、豪氣ニモ、遠ク暹羅ニ、安南ニ、ヒリツピ  
ツニス群島ニ航シ、或ハ之ヲ征服シ、或ハ之レト通商シ、盛ニ相往來セシ  
ニアラスヤ、彼レ單騎鞭ヲ揚ケ六昆ニ王タリシ、山山長政氏、其人ノ如キ  
アリ、勇敢險ヲ冒シ、通商殖民ヲ企圖セシ、原田孫七郎氏、其人ノ如キ  
アリ、南鵬翼何時奮、久待扶搖萬里風ト、壯吟セシ、伊達獨眼龍公、其人ノ如キ  
アリ、然リ而レテ吾人今日ノ、日本男兒タル者、彼レ歐米人ノ、瞬速ナル運  
動ニ、冒險ナル行爲ニ、空シク其後ヘコ喫驚瞠若ヤル、豈吾人ノ祖先ニ對  
シテ、慚死セサランヤ、起ヨ企業ノ士、作テヨ冒險ノ客、芙蓉峰ノ風ニ擊テ  
萬里ノ翼ヲ振ヘ、大平洋ノ波ニ浴シテ、千古ノ胸懷ヲ快ニセヨ

七

第二章 諸島ノ位置

吾人が今南洋諸島ト稱スルモノハ、北緯二十五度四分ニ起リ、全一度五十九分ニ到リ、東經百三十七度三十分ニ起リ、西經百五十七度三十分ニ至ルノ間ニ碁布散點スル諸島ヲ云フ、今其重ナル島嶼ヲ擧クレバ、小笠原群嶋母島ノ南微西ニ走ル、九十四哩一哩ハ我カ十四町十四ニシテ、一島アリ聖亞歷山島一名北島ト呼ブ其南微東ニ當リ、四十哩ニシテ一嶋アリ、サレフアイランド一名中島ト呼ブ又其南東ニ當リ三十五哩ニシテ一嶋アリ、聖埃加斯島一名ト呼ブ三嶋恰モ三曜星ノ狀ヲナセリ、之ヲ火山群島トナス、埃加斯島ノ東南東一百哩ヲ隔テオーシン嶋アリ、オーシン嶋ノ南東六十哩ヲ隔テブルークス嶋アリ、ブルークス嶋ノ東南又六十哩ヲ隔テパロール島アリ、パロール島ノ東南又二百五十哩ヲ隔テレーザンスキ、レーザンノ二嶋アリ、其ノ正南二百哩ノ處ニアルヲマロローフ嶋ト云



南洋諸島之圖

朝鮮

日本

支

那

1912.7  
火群島

密着

元多

支那海

ラド  
ロネ

サマウラ

ハル

クラハ

ナリロカ

ア  
DIL  
ニ  
タ  
AG

ユーアルラポ

ア  
ギ  
ア

ケ

南洋諸島之圖



支

那

支那海

ホルネ

朝鮮  
日本

ミナト  
サト  
水島

ラド

クラハ

ナリロカ

スマスク

アビシハ

ユアムラフ

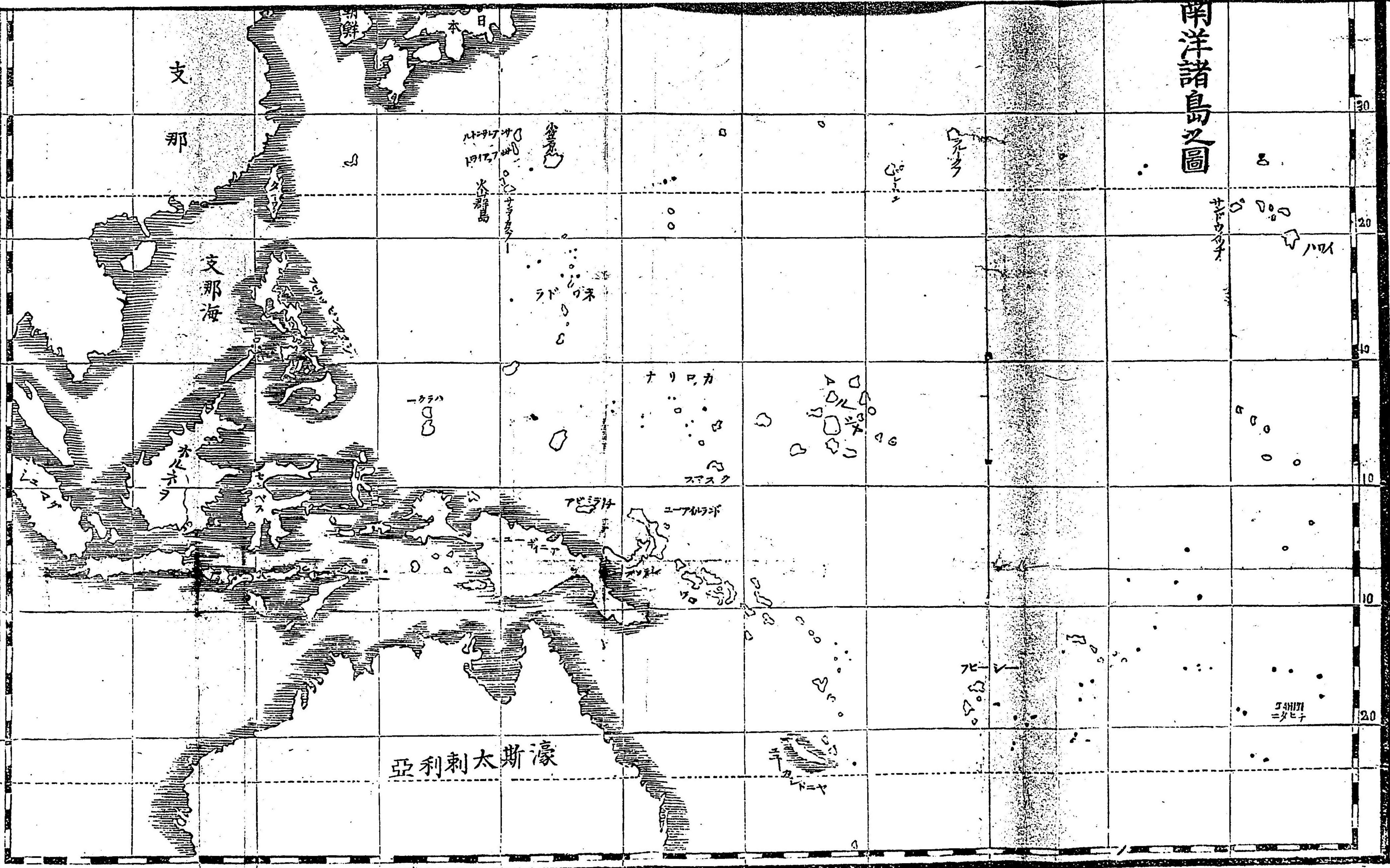
亞利刺太斯濠

サト

ハロイ

アヒリ  
ニタヒ

南洋諸島之圖



支那

支那海

亞利刺太斯濠

タリロカ  
ヌーアカラフ  
ジャヒリニダヒナ

タリロカ

ヌーアカラフ

ジャヒリニダヒナ

30

20

10

10

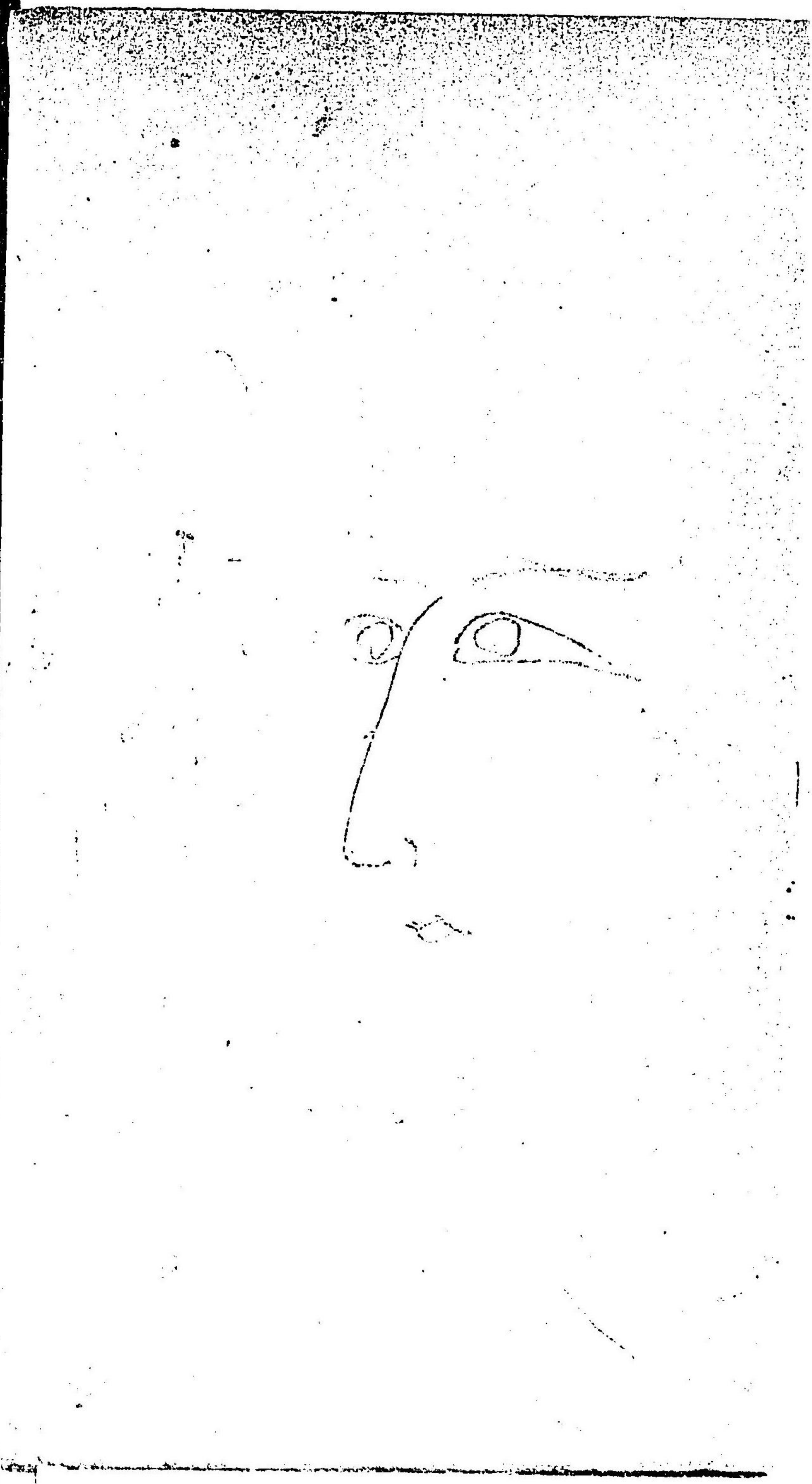
10

20

ヒ、マロリーフ嶋ヲ距ル八十哩ノ處ニアルヲガムドナー嶋ト云ヒ、ガルドナー嶋ヲ距ル、四百八十哩ノ處ニアルヲフレンチブリクット島ト云ヒ、フレンチブリクットヲ距ル、七百五十哩ノ處ニアルヲコルンウェリース嶋ト云ヒ、コルンウェリース嶋ヲ距ル、三百六十哩ノ處ニアルヲクリスマス嶋ト云フ、以上ノ十嶋ヲ總稱シテ南洋ノ無人嶋ト呼ブ、又別ニ我カ日本ヲ距ル二千餘哩ニ當リバラウターマルンヤールノ二群島アリ、之ヲ有人諸島トナス、

### 第三章 火山群島

聖亞歷山島ハ、蒼茫孤立ノ一山島ナリ、其狀宛モ覆椀ノ如シ、時ニ舷頭ニ立ツノ舟子海天一色ノ間、地平線上ヨリ一點ノ黒子遙ニ來ルヲ見ル、之ヲ隔ルコト數十哩ニ至リ、始テ山ナリ嶋ナリト認ムヘク、漸ク近クニ從テ、鬱鬱蒼蒼佳木良材ノ翠テ疊ムカト思ヒ、既ニシテ島岸ニ沿フテ子細





ニ觀察スレバ、全嶋半ハ焦土ニシテ、只矮小ナル灌木ノミ生長繁茂シ、以テ先キニ遠望ノ美觀ヲ作リシノミ、彼レ南洋諸島ノ特産タル椰子、麵包ノ樹ノ如キ、食用ニ供スヘキ、果實ヲ見ズ、周回太約三哩許、海濱舟ヲ寄スルノ港灣ナシ、島ハ北緯二十五度四分、東經百四十一度十二分ノ處ニ在リ、吾人南洋ノ航路ヲ啓スルヤ、壯氣萬里、鵬翼ヲ長風ニ張リ、橫濱港ヲ解纜シ、數日ニシテ小笠原嶋ニ寄り、茲ニ薪水ヲ増載シ、再ヒ二見港ヲ發シ、南航スルコト一晝夜ニシテ、本嶋ニ至レバ、先ツ吾人が胸裡ニ浮ヒ來ルハ、此ノ絶海豆大ノ一小島ニシテ、草木ノ生育ヲ見ル斯ノ如シ、若稍大ナル者ヲ得バ、大ニ吾人ノ希望ヲ満足ナラシムベシトノ豫想ナリ、次ニ浮ヒ來ルハ躊躇スル勿レ、進ンテ取ルベシ、南洋ノ諸島ハ大トナク、小トナク、盡ク是レ歐米諸國ノ占領スル所タリ、而シテ猶遺等幾多ノ遺漏アル、天實ニ之ヲ吾人ニ賜フナルカノ一大感想ナリ、吾人ノ

十

航路ハ、此ノ兩個ノ感想ヲ合奏シテ進メリ、

硫黃島ハ、北緯二十五度二十四分、東經百四十一度十分ニ位シ、東南ヨリ西北ニ延長スル五哩、其幅員ハ、二哩ヨリ一哩ニ出入セリ、中央少シク平坦ナル砂地アレドモ、地勢ハ南ニ馳セテ漸ク丘ヲ成シ、海面ヨリ高キコト七十呎許、其東南極ニ硫黃山アリ、  
硫黃山ハ、屹然トシテ海ヲ抜クコト、六百四十七呎、全山硫黃ヲ以テ成レリ、其巔ニ一大洞坑アリ、坑邊累々トシテ、赤綠白班ナル硫黃石アルヲ見ル、地ヲ掘ルコト少許ニシテ眞黃色、應目硫黃ト稱シ世ニ稀鼠白色、硫黃ト稱シテ價ノ硫黃礫脈アルヲ發見セリ、洞坑ハ、口狹クノ懷廣ク、氷柱樣ノ結晶体内部ノ上邊ヨリ垂下シ、其長サ六七尺ニ至ル者アリ、一見殆モ明礬ノ如シ、其尖端ヲ碎キ、洞中ヲ出テ、試ニ之ニ火ヲ點ズレハ、青色光ヲ呈ノ燃ユルヲ、硫黃ニ異ナラズ、是ニ於テ乎、亦硫黃ノ一種ナルヲ悟レリ、

十一

山麓悉ク<sup>シキド</sup>結土巖石ノ間、處處礦泉ヲ湧出ス、其熱大抵九十度ニ下ラス、此ノ區域ヲ出ツレハ、地質厚ク草木能ク茂レリト雖モ、唯食用ニ供ス可キ菓實ヲ結ブノ樹木ナキコソ遺憾ナレ、本島モ、聖亞歷山島ト同シク、船ヲ容ル、ノ海門ナク、特ニ硫黃山下ノ如キハ、一方海ニ面シテ、青壁丹崖白浪常ニ雪ヲ吹ヒテ、航客ノ膽ヲ寒カラシム、其西岸草木ノ繁殖セル砂濱ハ、水淺クシテ端艇ヲ蓋スノカナク、強テ進メントスレバ、却テ覆翻ノ憂ヲ免レズ、唯除ニ岩ト礁トノ間ヲ縫ヒ、潮ト風トノ機ヲ察シテ、其北端ニ投錨スルヲ得ベシ、

初メ吾人が本島ニ船ヲ寄スルヤ、一朵ノ黒雲忽然トシテ船体ヲ蔽ヘリ、驚キ仰ケバ、コハ如何ニ、雲ナラナクニ數萬ノ群鳥ナリ、上下飛鳴シテ、毫モ機心ヲ解セザルモノ、如シ、是ニ於テ、試ニ獵銃ヲ提携シ來リ、散彈ヲ込メテ群鳥ノ中心ニ發セシニ、一發直チニ九羽ヲ落セリ、之ヲ

拾ハントシテ、吾人ノ視線海面ニ下レハ、何ソ圖ラン、巨大ナル鯨鱈ハ落チタル鳥ヲ爭フテ躍躍其幾千尾ナルヲ知ラズ、吾人ハ端ナク再ヒ這ノ有様ニ驚キシニ、心利キタル水夫等ハ早速ニモ鉄製ノ火筒ヲ曲ゲ、乾豚ノ片肉ヲ餌トシテ、鱈魚ニ投ヲ立ロニ五尾ヲ獲タリ、滿船覺エズ快ト呼ブ、這等ノ諸現象ハ、更ニ吾人カ畏懼ノ念ヲ脱シ去テ進取ノ氣象ヲ惹起シ、是ニ至テ一行ノ六人ハ、上陸探檢スルコトニ決シタリ少焉ニシテ群集セル羽族散シ、魚類沒シ、夥多ノ圍外物除ケリ、是ニ於テ吾人ノ一行ハ結束シテ端艇ヲ下シ、島ノ北岸ヨリ登リ、一管ノ小笛ヲ鳴ラシ應呼ノ便ヲ取り、巖岩ニ攀<sup>モロシ</sup>ヤ蒙茸ヲ啓キ、辛フシテ嶋内ノ探檢ヲ終レリ、

茲ニ吾人ハ飜ツテ、本嶋移住ノ問題ニ就キ研究スル所アランニ、先ツ困難ナリト感スルハ食物ナラン、然レドモ吾人が茲ニ記憶セザル可

カラザル點數個アリ、

第一、氣候ニ四季ナク、草木ノ生長シ易キ事、

第二、地質肥沃ニシテ、南洋諸島ノ特産タル椰子、麵包樹ノ如キ、有用ノ植物ヲ移セハ、容易ニ培植スベキ事、

第三、鳥卵ノ夥多ナル、移植セシ有要樹ノ成熟セザル間ハ、之ヲ以テ食物ニ充テ、差支エナキ事、

第四、海産ニ富メル事、

第五、地ヲ掘ル五六尺ニシテ、清涼ノ甘泉ヲ得ベシ、又南洋諸島ノ常トシテ、時時驟然トシテ雷雨到ル、之ヲ貯蓄シ以テ飲用ニ欠乏セザル事、

以上ノ諸点中、鳥卵ノ夥多ナルカ如キハ、特ニ本島ノ獨占ナリトモ謂フベク、吾人カ島裡ヲ探檢スルニ當リ、一行互ニ呼子笛ヲ鳴ラシテ相

應ズレハ、鶴ニ以テ頸ノ長サ三尺餘アル一種ノ野鳥群集シ來リ、吾人ノ帽ヲ啄ミ衣ヲ挽キ、吾人ノ歩行ヲ遮キル事奇異ナリ、去レド差シタル害モナサズ、因テ小刀或ハ鉈ヲ振ヒ、排推シテ進ムニ草深ク地ノ凹處ニ到レバ、此鳥ノ卵、甜瓜大ノ者數十箇累累トシテ堆積スル幾處ナルヲ知ラズ、依テ吾人ハ數百個ヲ採リ、或ハ炙リ、或ハ烹テ之ヲ食スルニ尽ク美ナラザルハナシ、余ハ這ノ一事ニ於ケルモ、殖民移住ノ難事ナラサルヲ悟レリ

聖埃加斯島、ハ、北緯二十四度東經百四十一度二十分ノ位置ニ在リ、島中ノ趣キ、聖亞歷山嶋ニ異ナルナシ、故ニ詳記セス、

以上ノ三島ヲ一概シテ、火山群島ト稱ス、實ニ我小笠原島ヲ距ル、僅僅百里以内ニアリ、方今歐米人士ノ宇内ニ雄飛スル、苟モ利ノアル所、虎穴龍潭モ探檢セザルナキノ時ニ當リテ、然モ、我帝洲ヲ距ル甚々遠カ

ラザルノ南洋ニ於テ、縱令其島嶼ハ廣大ナラザルモ、其利益ハ巨額ナラザルモ、斯ク天産充實ノ一藏庫ヲシテ、空シク蝙蝠信天翁ノ幽棲ニ附シ去リテ、未タ歐米人ノ掌裡ニ歸セサルハ、實ニ天幸ト云フヘシ、奮起セヨ、吾党ノ士、吾人何ツ默黙ニ堪ユベケンヤ、

聞クカ如クハ、去年六月中、小笠原人荒井義邦氏、帆走船南洋九ヲ以テ、聖亞歷山島及硫黃島ニ航シ、本邦人八名ヲ置イテ歸レリト、吾人ハ氏ノ發憤ヲ歎シ、併セテ其目的ノ成就センコトヲ祈ルニ切ナリ、

#### 第四章 無人諸島

吾人ハ無人諸島中ニ就キ、後來最モ目的アルノ島嶼ノミヲ詳記シテ、其他ハ概テ省略セリ、是蓋シ吾人カ編纂ノ主意タル、專ラ商業的移住的ノ事業ニ在ツテ、地學上ノ研究ニ非ラザレバナリ、

ブルークス島 ハ、北緯廿八度十四分、西經百七十七度廿五分ニ位シ、周回七哩余、其形梨菓ノ如シ、西岸珊瑚礁ノ突出セル十八哩、以テ菓柄ヲ形成セリ、地勢北部ハ高く、南部ハ低ク、其東南端ニ一港アリ、布哇ノホノル、港ニ似テ、四時風波ノ虞ナク、真ニ無人島中第一ノ良港タリ、其産物ハ略レーザン島ト全シ、

レーザン島 ハ北緯廿五度四十八分、西經百七十一度四十四分ニ位シ、周回太約七哩許、沿海繞ラスニ一帯ノ珊瑚礁ヲ以テシ、自然ニ波止場ヲ築キ、巧ニ怒濤ノ衝突ヲ禦グリ、其西端ハ、珊瑚礁海中ニ突出スルコト二丁餘、砂礫ヲ以テ之レヲ蔽フ、其陰ハ一小港ヲ爲スト、雖モ、西風烈シキ時ハ、波浪激揚シテ舟ヲ容ル、能ハス、島ノ中央ニ一鹹湖アリ、水ノ深サ五六尺ニ過キズ、湖底ハ盡ク鹽ノ結晶体ヲ以テ填充ス、全島ノ地皮大抵、煤黑色ニシテ、案山土ト稱スル肥沃質ヨリ成リ、草木繁茂セリ、又能ク各種ノ植物ヲ培養スルニ適ス、島中登ルヘキノ山ナク、又泛ブベキノ河ナ

シ、然レトモ、中央湖邊ニ到レハ、不凋ノ花絶ヘス、ヒライテ異香ヲ放チ、不老ノ鳥常ニ狎レテ美音ヲ囀シ、シキツツ鵲等ノ種属群棲シテ驚カス、吾人ヲ見テ嘗テ機心ヲ解セザルノ有様ハ、轉々吾人ヲシテ、彼ノ大古ニ於ケル、以テ丁ノ花園ニ逍遙セシムルノ觀アラシム、眞個ニ是レ人界以外ノ蓬萊トヤ稱スヘキ歟、

吾人ハ、今レレーザンブルークス二島ノ位置ニ就キ、及ヒ産物採集ノ方法ニ就キ、聊カ論ズル所アラントス、ブルークス島ノ、レーザン島ヲ去ルコト、遠クモ三百哩ニ過ギス、輕帆一片貿易風ニ乗ズルトキハ、僅ニ二日程ニ過キズ、其兩島ノ間ヲ往復スル、亦甚ダ難カラサルナリ、然レドモ、レーザン島ノ沿岸ハ、三四十噸ノ大船ヲ繫留シテ安全ナルノ良港ナク、特ニ一年中、五六月ノ交ハ、西風吹キ暴レテ小舟タリトモ容易ニ寄スル能ハズ、之ニ反シテブルークスノ、東南端ニハ布哇ノ

ノル、港ニ似タル、一良港アリテ以テ船舶ヲ繫留スルニ足レリ、且其地勢ノ昂下セル、氣候自ラ貯藏ノ地ニ適當セリ、是ヲ以テ、吾人ハ、後來殖民移住ノ日ニ於テハ、ブルークス島ヲ以テ、主部頭腦ノ府トナシ、三四十噸ノ帆走船ヲ備ヘ置キ、東航西馳以テ脉絡ヲ通シ、レーザン島ヲ以テ、胸腹ト爲シ、物産製造ノ所トシ、他ノ諸島ヲ以テ手足ト爲シ、一部機能ノ所トスレハ、千年激樂ノ境、一朝開發シテ生氣流通ノ區ト爲ス、亦國利民福ヲ増進スルノ点ニ於テ、天物ヲ暴殄セサルモノト謂フヘシ、

且ツ諸島ノ遺利アル、又少々ナラサルナリ、吾人ハ先ツ、レーザン島ノ産物ヨリ説カンニ玳瑁、カウボウ鱈、カウボウ鰯、カウボウ鰯、諸島ノ羽毛及卵等ノ如キ、特ニ海龜、鱈族ノ夥多ナル、實ニ吾人ヲシテ豫想ノ外ニ喫驚セシメタリキ、初メテ吾人カ本島ニ寄泊スルヤ、沿岸ニ無數ノ海龜カ、乾甲墊睡スルヲ見

タリ、因テ之カ捕獲ヲ試ミシコ、僅 二時間ニシテ七十四頭ヲ獲タリ、其翌日ニハ、朝食後ヨリ正午迄ニシテ、一百四十頭ヲ獲タリ、這ノ非常ナル捕獲ハ、素ヨリ完全ノ漁具アルニ非ス、只簡單ナル一挺ノ罾<sup>シロ</sup>釣<sup>ツリ</sup>ヲ用ユルノミ、又其夜月色ノ玲瓏タルニ乗シテ、鱈魚ヲ漁セシニ、午後七時ヨリ十一時ノ間ニシテ、無慮百三十尾ヲ獲タリ、這ノ夥多ナル漁獲ハ、素ヨリ我カ内地漁業者ノ、要スル精巧ノ釣具アルニ非ス、只搦<sup>シロ</sup>様ノ麻糸ヲ垂レタル粗大ノ鉄釣ヲ用イタルノミ、而シテ易々這ノ多數ノ獲得アリシ、若内地熟練ナル漁業者ヲレテ、此區域ニ在ラシメハ、豈ニ管ニ此等數百ノ漁獲ノミニシテ己ムヘケンヤ、又烏卵ノ如キ、予カ計算ニ由レハ、九、十ノ二ヶ月間ニ於ケル、産卵ハ五六十人ヲシテ拾集セシムルモ、尙盡ス能ハサルモノアリ、是將タ天然無盡ノ寶庫ナリト言フモ、過言ナランヤ、試ニ想ヘ、現時<sup>ツカヒ</sup>鱈<sup>カサ</sup>緒<sup>ヒレ</sup>ノ支那ニ輸出スル、我カ内地海

産ノ輸出物中、其價額ハ、乾鮑ト併行シテ、稍其上位ヲ占ムル者ナリ、今之ヲ最低ノ相場ニ準スルモ、猶百斤三四十圓ノ間ヲ上下シ、就中目白鱈ノ如キハ、百斤百二三十圓ノ上價ヲ有セリト、今余カ推算ヲ以テスレハ、一日ノ捕獲平均五十尾 五人乗漁船一艘ニ付キトシ、三千尾ニシテ一萬斤ヲ得、去レハ僅僅タル二ヶ月餘ニシテ、三千餘圓ノ収獲ヲ見ルヘシ、又此他諸島ノ、烏卵ヲ採集シテ内地ニ歸輸シ、麵麩製造等ニ使用スル時ハ、一ハ以テ支那輸入ノ雜卵ヲ減額シ、一ハ以テ支那輸出ノ産物ヲ増加スル其出入得喪ノ差、豈ニ勘々ナリトセンヤ、讀者乞フ下表ノ統計ヲ見テ以テ、吾人カ言ノ虚ナラサルヲ諒セヨ、

外	鱈		量	元
	年	度		
全	明治十五年	六七、〇三三	五三、七〇五	
全	十六年	一六六、九六一	五〇、〇六三	
全	十七年	二四二、〇二九	七〇、〇五二	
全	十八年	二〇八、五五〇	六三、二八四	



スルトモ、決シテ盡クルノ期アラサルベシ

### 第五章 有人嶋

#### 第一 パラウー群島

島鼻コシテ巨肩、長<sup>タ</sup>秦嶺ノ雲ヲ抽キ、迷頭ニシテ跣足、體神農ノ裝ヲ擬ス、  
 屋邊繞ル者ハ鬱蒼タル樹林、空ニ和シテ栽へ、眼界盡ル所ハ渺茫タル大  
 洋、天ニ接シテ凸シ、風ハ寥々トシテ樹梢ニ嘯ケトモ、波ハ平カニノ洶々  
 ノ聲遙カナリ、一年三百六十日、妖艶タル桃季、花咲クノ觀アレハ、體體タ  
 ル積雪、脛ヲ埋ムルノ威ナク、驕炎灼熱燬クガ如キ日ニハ霹靂一聲驟雨  
 立ロニ到リ涼風煩襟ヲ洗フアリ、概ノ言へハ、正ニ是レ、陽春三月百花芳  
 ヲ開ハスノ候、寂寞タル孤村、衝木ノ裡、椰葉費ニ代へ、三角ノ環堵、月常住  
 ノ燈ヲ挑ク、朝暉ノ海ニ映スルヲ見テハ、曉鴉春眠ヲ警スノ時ナリト思  
 ヒ、夕陽影ヲ潜メテ微星空ニ驕ルヲ見テハ、遊鳥峙ニ歸ルノ海暮ナリト

定ム、二六時中苦モナク、憂モナク、餓テ木實ヲ喰ヒ、渴シテ澆水ヲ掬ス、是  
 ハ斯レ南洋パラウー群島ノ土人が生涯ヲ摸寫シタル、一段ノ光景ナリ  
 ト知ルベシ

群島ノ位置、北緯七度ニ起リテ八度四十分ニ至リ、東經百四十一度ニ始  
 リテ、百四十四度三十分ニ終ル、延長太約百哩、幅員廿五哩ノ間ニ羅列セ  
 ル、諸島嶼、チ云フ、而シテ其周圍一哩ヲ距テテ天造ノ珊瑚礁、自然屏風ニ  
 似タルアリ、此間海波平穩絶テ難破覆没ノ虞アルナシ

群島中ノ最大ナル者ヲパラウター本島トス、樹木能ク繁茂セリ、グル  
 プカン<sup>周回</sup>グル<sup>カツセル</sup>、長<sup>サ</sup>太約七哩、沿岸ハ乾燥セル砂ノ諸島其西  
 南ニ當リ、バベル<sup>四哩</sup>タツ<sup>カツセル</sup>、島ハ其傍ニ在リ、北北東ヨリ南南西ニ延長ス、直  
 徑太約廿五哩、廣サ本島ノ次ニ位ス、數百ノ土人其南端ニ住シ、菓實ヲ以  
 テ常食トナシ、ゲツ<sup>長</sup>チ<sup>サ</sup>、鳥<sup>一尺</sup>器<sup>余</sup>ナリ、之ヲ投シテ鳥ニ命<sup>中</sup>スレハ、鳥ト共ニ落



チ、外ツルレハ、自己ノ身邊ニ戻リ來ル、此器ハ土語「マ」ト稱スル軟カニ  
 ノ、彈力アル木ヲ火ニテ炙リ、之ヲ灣曲シタルモノナリ、之ヲ作ルニ能ク  
 平均ヲ得ザレバ無用ニ属ス、故ニ「マ」ヲ以テ飛鳥ヲ捕ヘ、粗造ノ木鉤、鋭尖ナ  
 土人ハ最モ注意ノ苦心スト云フヲ以テ飛鳥ヲ捕ヘ、粗造ノ木鉤、鋭尖ナ  
 ル木鉤ヲ以テ漁獵ヲナシ時ニ岩上ニ坐シテ鱒鱒ヲ刺ス、其方法ハ「マ」  
 ナリ、身ニ牽制ナク、心ニ羈伴ナク、各自天然ノ自由ヲ全フシ、悠々トシテ  
 閑日月ヲ消過セリ、西端一ノ高山アリ、其ノ高サ千尺餘、仰キ瞻レバ叢樹  
 頂ニ茂リ、奇巖重疊シ、天色麗朗、雲ナキノ日、攀ヤテ最高ニ至レバ、群嶋ノ  
 風景蒼然トシテ、帷席ノ下ニ集リ、イラコング島ハ兩脚ヲ伸ハセルガ如  
 ク、東南南ニ突出シ、之ニ連ナル數多ノ小島、或ハ臥牛ノ如ク、或ハ猷虎ノ  
 如ク、白鷗眠ル所、水波靜カニ無數ノ海鳥食ヲ争フテ天ニ入テ歸ラズ、  
 「マ」群島幾個ノ村落、淡烟杳靄ノ間ニ出沒セル、其氣象ノ浩蕩佳絶ナ  
 ル能ク筆紙ノ盡ス所ニ非ザルナリ、

第二 「マ」群嶋ノ物産

本島ノ天産ニ富メル、實ニ吾人ヲシテ其虚誕ナルカヲ疑ハシムル者ア  
 リ、茲ニ其大畧ヲ揚グレハ椰子樹「コブラ」及「セルウヰ」ヲ製ス、麵麩樹「アラレ  
 イン」檸檬「ヤム」眞珠「カサ」鱈「カサ」七面鳥「カサ」鷄「カサ」  
 鴨「カサ」大蝙蝠、其他野鳥到ル處ニ群棲ス、然レドモ猛獸毒蛇ノ人畜ヲ害ス  
 ルモノナク、田畝ヲ荒ス鳥雀ノ類ナシ

因ニ云本島ニ産スル鷹ハ一種異様ノモノニシテ、鵬邊ニ一ノ大囊ア  
 リ、常ニ大氣ヲ充滿ス、思フニ高處ニアリテ、空氣稀薄ナルヲ防ガ爲  
 メ歟、將タ地平ニ飛下ルニ際シテ、速力ヲ助クルガ爲歟、常ニ中天ニ  
 懸リ、三四十哩四方ヲ睥睨セリ、双眼鏡ヲ用ユルニ非ラザレハ眩カニ  
 認メ難シ、會海鳥ノ魚ヲ捕ヘテ飛揚スルヲ見レバ、銃丸飛箭モ管ナラ  
 ズ、卒然垂下シテ之ヲ襲撃シ、巧ミニ餌ヲ奪ツテ復タ九阜ニ登ルト云  
 フ

吾人ハ既ニバラウター群島ノ地形物産等、畧其全豹ヲ記述セリ、因テ進  
 ンテ物産ノ重ナル價格ヲ有セル二三ヲ表出セントス、彼鱈鱈ノ如キ  
 ハ、曩キニ無人島ノ部ニ於テ之ヲ尽セリ、故ニ復論セズ、唯鼈甲、眞珠貝、  
 及、椰子樹等ニ付其採集ノ多寡、併セテ價格ノ如何ヲ讀者ニ報スルヲ  
 以テ足レリト信ズ、本島諸種ノ物産ニ富メル特ニ椰子樹ノ如キハ、  
 土人ハ之ヲ以テ常食トナスニ拘ハラズ、其菓實ハ累々地上ニ堆積  
 シ、空シク腐敗ニ属スルモノ、率キ十中、八、九ニ居レリ、今這ノ夥多ナ  
 ル椰子ノ菓肉菓核ヲ包藏スル爲、棕梠皮椽ノ、ヨリ「セルヅ」ローザー」  
 軍艦ヲ製造スルニ木材ト組織スル部分ナリ、鐵ノ間ニ容ル、モノナリ、  
 ケ月一人ニシテ五六噸ヲ採拾スルヲ得ベク、又鼈甲、眞珠貝ノ如キ  
 ハ、其採集極メテ容易ニシテ、通常人夫一人ニ付、一日ニ眞珠貝八十貫  
 鼈甲四五十枚ヲ得ベシ、而シテ是等數種ノ價格ヲ問ヘハ、橫濱ニ上海

ニ、平均相場鼈甲一枚ニ付小ナルモ一圓ヨリ、大ナレバ五六圓ニ、眞珠  
 貝一噸、少クモ四百弗ノ價ヲ有セリ、而シテ「ゴブラ」セルヅ「ローザー」  
 ノ如キハ先年我が海軍省ニテ佛國ヘ注文セシニ「ゴブラ」一噸十八磅、  
 「セルヅ」一噸六百弗ナリキ、又茲ニ製造者ニ取リテ記臆  
 スベキ点アリ、本邦土人ノ柔順ニシテ指役ニ抵廉ナル、彼レ一日ノ勞  
 働僅僅一斤ノ下等煙草ト、一片ノ「ハンカチーフ」ヲ以テ喜ンテ事ニ從  
 フコト是ナリ、今這ノ天然無盡ノ物産ニ就キ、抵廉最下ノ人夫ヲ使役  
 セバ、其製造品ニ於ケル、本島ヨリ各國市場ニ輸出スル、如何ニ遠遠ナ  
 リト雖モ、如何ニ運送費ヲ要スルト雖モ、尙幾多ノ贏利アル必ラズシ  
 モ識者ヲ待ツテ後知ラザルナリ

第三 土人ノ風俗

土人ハ總テ宗教ノ何物タルヲ解セズ、從ツテ禮節ノ如何ヲ知ラズ、邑ニ

酋長ナリ、事ニ規律ナク、懶惰悠々一生ヲ送了スル、恰モ禽獸ニ異ナルナシ、然レトモ土人死スレハ地ヲ掘ル<sub>一</sub>尺余、空シテ土砂ヲ堆積シ之ヲ圓ムニ石ヲ以テシ、塊然一抔ノ墳墓ヲ築ケルカ如キ老耄癡疾自活スル能ハザルモノアレバ、互ニ相救護スルガ如キ、稍其道德ノ發達セル程度ヲ徴スルニ足ルベシ、其心術ノ柔順ニシテ能ク外人ノ使囑ニ服スルカ如キハ、他ノ蠻族ト大ニ異レリ、体軀長大ニシテ、壯健ナリ、生育至ツテ速ニ男子十二歳、女子十歳許ヲ以テ生殖器發達ノ期ト爲シ、何レモ裸体ニシテ腰部ニ椰葉ヲ纏ヒ、或ハ襯衣<sub>シヤ</sub>此ハ外國船ノ水夫等ヨ等ヲ着セリ、淫風甚タ熾シニシテ父子兄弟ノ差別ヲ立テス、然レモ此間ニ稍奇トスヘキハ、女子ノ産褥ヲ人ニ見ラルルヲ厭フノ習慣是レナリ、其意或ハ醜体ヲ顯ハスヲ耻ツルノ良心ニ起因スルモノ歟、又土人が鋭尖ナル眞珠貝ヲ以テ小刀ニ代用シ、粗末ナル器具ヲ製シ、埴<sub>ヒ</sub>ヲ以テ水甕<sub>シツガ</sub>ノ類ヲ造リ木ヲ伐ツテ獨木船<sub>カノ</sub>ヲ作ルカ如キモ、亦幾分カ其意尙ノ發達セル所アルヲ知ルベシ

## 第六章 瑪助查爾群島

吾人ハ既ニバラウ<sub>ラ</sub>群島ノ風土、産物、及、土蠻生活ノ有様ヲ記了セリ、今ハ其方向ヲ轉シテ瑪助查爾群島ニ及バン

瑪助查爾群島ハ、北緯四度ヨリ十五度ニ延キ東經百六十一度ヨリ百三十二度ニ散シ、數百ノ小島相集ツテ其ノ形勢ヲ成セリ、其主島ヲアエリン<sub>グ</sub>フ<sub>ラ</sub>ブ<sub>ラ</sub>ラ<sub>イ</sub>ブ<sub>ト</sub>稱シナーモオ<sub>シ</sub>ヤ<sub>ノ</sub>二部島ニ分離セリ、オ<sub>シ</sub>ヤ<sub>ハ</sub>現ニ島主ノ居ル處ニシテ、之ヲ各島ノ中心ト爲ス、故ニ今、諸島ノ距離ヲ説明スルニ當リ、亦、オ<sub>シ</sub>ヤ<sub>島</sub>ヲ以テ歸輪航路ノ中心トセリ  
オ<sub>シ</sub>ヤ<sub>島</sub>ノ西北北、二十余哩ニシテナーモ島アリ、其西スル斜ニシテ、四十五哩ノ處ニ、コワシレン島アリ、又西北ニ轉航スル七十哩余ウツト島

アリ、ウチットノ東北百哩ニロンリック島、又八十哩、ロングラリア島、又六十  
 五哩、アイリギナーエ島アリ、アイリギナーエ島ノ東北五十哩ニシテヒ  
 ギニー島アリ、ヒギニー島ノ正西百七哩ニエニベドック島アリ、  
 オッジャ島ノ東方百三十哩余ニアルマジョロ島ト云ヒ、又其東十哩ニア  
 ルラアルノ島ト云ヒ、又其南東百八十哩コアルマ、ミユレー島ト云ヒ其  
 東南南八十哩コアルマジャリト島ト云ヒ、又二十哩ニアルマキリー  
 島ト云フ

オッジャ島ノ南方百哩ニ、ナモック、又タ南スル六十哩ニエボンノ二島ア  
 リ

オッジャ島ノ東北百二十哩ニ當ルマ、エリコップ島ト呼ヒ、又タ二十哩ニ當  
 ル二島ヲマロングラード、アウルト呼ヒ、之ヨリ北五哩ニ當ル、チウツツ  
 エ島ト呼ヒ、又二十五哩斜西ニ當ルヲジエーモ島ト呼ヒ、又十余哩東ニ

當ルヲ、ノイルック嶋ト呼ヒ、又五十哩ニ當ルチメシート嶋ト呼フ、

オッジャ嶋ノ北方百四十哩ヲ距テタルハ、リキエブ嶋ナリ、リキエブ嶋ノ  
 北方八十五哩ヲ距ツルハ、ウツルック嶋ナリ、更ニ北百六十哩ヲ距ツル  
 ハガスパリスコ嶋ナリ、

オッジャ嶋ノ西北西百四十哩ニシテエンリーブ嶋アリ、又七十哩ニシテ  
 ラエ嶋アリ、又西北西十七哩ニシテウーヂヤエ嶋アリ、之ヨリ西ニ航進ス  
 ル、二百八十哩ニシテウーヂラン嶋アリ、

以上三十二嶋、合シテ、瑪助尙爾群嶋ヲ形成セリ、而シテ、這等ノ諸嶋ハ又  
 數多ノ小嶋ヨリ成レリ、土人自ラカナカト唱ヘ、瑪查助爾群島ノ稱アル  
 ナ知ル者稀ナリ、

以下、諸嶋ニ就キ、一々其地形廣袤等ヲ詳説セント欲ス、然レトモ、其後來  
 ニ向ツテ、目的アル島嶼ノミヲ擧ケテ、其他ハ之ヲ省略セリ、蓋這般島嶼

ヲ以テ他ハ皆類推スヘケレハナリ、

第一 オシヤ諸島

北韓七度十四分ニ起リ、其狀蝸牛ノ頭上ニ似テ、左右ニ二角ヲ伸ハシ、左角ハ七度卅分ニ至リ、右角ハ七度三十三分ニ至ル、兩角腕曲シテ海水ヲ抱キ、自然ニ一大港灣ヲ作レリ、東經百六十八度三十二分ニ起リ、四十八分餘ニ至テ盡ク、全島大小、合セテ、其數三十三島アリ、

本島ノ東西廣キ處、十五哩ニ及ヒ、狹キハ四五哩ニ至ル、長サ十九哩形狀稍馬蹄ニ似タリ、

本島ノ北方、百四十哩ニシテ、リキエブ嶋アリ、東北百二十哩ニシテエリコブ嶋アリ、百廿五哩ニテウツヂエ嶋アリ、又十哩ニシテ、シヤバ嶋アリ、東北東百四十哩ヲ隔テ、マロングラーフ、及、アウルノ二嶋アリ、東方百卅哩餘ニマシロ嶋アリ、東南東百八十哩ニシテ、ミユレー嶋アリ、東南八

十哩ニシテ、シヤリコト島アリ、南方百哩ニシテ、ナモクク島アリ、西南及西南西ハ、沙漠タル大洋ニ臨ミ、其西北西、百四十哩ニエンリーフ島アリ、又、其西北、百二十哩ニ當リ、ナーモ島アリ、

全島、三十三箇アリト雖モ、其中大ニシテ居住ニ適スルモノハ、只十箇ノミニシテ、餘ハ皆洋中ニ點布スルニ過キス、

海灣ハ、磐石岩礁脈絡ヲ成シ、廣袤十哩ヨリ四五哩ニ出入シ、波平ニ水深ク、中央ノ深處ハ、測繩ノ能ク達スル所ニアラス、船舶ノ投錨ハ常ニ岸ヲ離ルル十町許ノ處ナルモ、猶、錨索、十八九尋ヲ下スニ非ザレハ水底ニ達スル能ハス、港内處々暗礁ノアルアリト雖モ、潮水清澄ナルヲ以テ、容易ニ指點シ得ヘシ、

嶋内、山河ナキガ故ニ、四五里ノ近キニ至ラズンバ、洋中ヨリ嶋嶼ヲ認ムル能ハス、故ニ若シ船舶ニシテ、不圖航路ヲ誤ル者アルハ、嶋嶼ノ近キ

ニ在ルモ之ヲ發見スルニ三四日ヲ費スコト、往々之レ有リト云ヘリ、  
大小、三十三、其嶋名左ノ如シ、

エンボン嶋(周圍、五英里半)アカシラ嶋(周圍、六英里)アエルツク島(周圍、六  
英里半)シヤボワン嶋(周圍、五英里半)グブル嶋(小嶋故見分セズ)デボマル  
嶋(全前)ラガエン嶋(全前)エレール嶋(全前)レポーカン嶋(全前)シエ嶋(周圍、  
四英里半)メシル嶋(周圍、六英里)エンナツク嶋(小嶋故見分セズ)ヂエー嶋  
(周圍、四英里ノモノ一箇、三英里ニ滿タサルモノ一箇アリ)

ウニデル嶋(全前)ボツク嶋(全前)ラマリナム嶋(全前)ビゲール嶋(全前)ノシ  
ヤエシアツク嶋(全前)ヲラノル嶋(全前)ガデツチ嶋(全前)マツラン嶋(全前)  
ハラン嶋(全前)エニシヨク嶋(全前)エニセンロード嶋(周圍、四英里半)ヲヂ  
ヤ嶋(周圍、十三英里現時、嶋主ノ居宅アリ)エニシアツク嶋(全前)シエブ嶋(全  
前)ゴド嶋(同前)エニウイ嶋(全前)ドロエン嶋(周圍、五英里)エニワン嶋(全前)

ガワカン嶋(全前)アエランガン嶋(全前)

第二 ナーモ諸嶋

該嶋、ハ北緯七度四十五分ニ起リ、八度十一分ニ至リ、東經百六十七度五  
十八分ヨリ、斜ニ東南東ニ向ヒ、百六十八度三十二分餘ニ到ツテ尽ク、全  
嶋大小合セテ三十二嶋、ナーモ嶋(周圍、七英里)ナーラツブ嶋(周圍、七英里  
半)メアイシヤン嶋(周圍、七英里)エオウ嶋(周圍、四英里半)エニマツク嶋(周  
圍、四英里)マイユ嶋(周圍、五英里半)ボコレン嶋(周圍、三英里半)マエシケン  
嶋(周圍、七英里半)ロワエン嶋(周圍、五英里半)ルマワイ嶋(周圍、八英里半)ア  
ーナル嶋(周圍、四英里)マドムイ嶋(小嶋故見分セズ以下皆倣之)エヘニ嶋  
レウワツク嶋(周圍、四英里)レウワレツブ嶋(エニウシロル嶋)ホバンライドク嶋(エニ  
ユツク嶋)オジヨツク嶋(チエーユツク島)テケレツブ嶋(エニシエツク嶋)ニヌン嶋  
ニニツク嶋(エンハツク嶋)マート嶋(ヤニプロ嶋)ロアシヨンマアン嶋(イ

シユラサン嶋、ローミシニケウ嶋、リュメール嶋、ホツク嶋ナリ、  
長サ三十七哩、幅員三哩ヨリ十一哩ニ出入シ、其狀、瓢子ノ扁面ノ如シ、  
北方百二十哩ニシテ、リエキブ嶋アリ、東北北百二十哩ニシテ、ウチヂエ  
嶋アリ、八十五哩ニシテ、エリコップ嶋アリ、

東北東百五十五哩ニシテ、マロングラープ嶋アリ、東方百五十五哩ニア  
ウル嶋アリ、東南東百五十哩ニ、マジューロ嶋アリ、東南南二十四哩ニラヂ  
ヤ嶋アリ、西方三十哩ニ、エンレীব嶋アリ、西北三十五哩ニシテ、コワジ  
レン嶋アリ、

港灣ハ、磐石脈絡ヲナシ、海水ヲ包テ、二大港ヲ成ス、其一ハ、稍圓形ニシテ、  
縦十一哩、横七哩、其二ハ長形ニシテ、縦十哩、横二三哩、両港、頗ル深奥ニシ  
テ、大船ノ碇舶ニ便ナリ、

海門ハ、其數四五アリト雖モ、大低深サ、十四五尋、只其西南極隅ニ在ル者

ノミ、頗ル深クシテ、底ニ礁石ヲ見ズ、能ク大艦ヲ通ズルヲ得ベシ、

嶋内山嶺ナク、又、河湖ヲ見ス、土地ノ高低、草木、及、嶋嶼ノ景况ハ大概ヲサ  
ヤ、及、コワジレン、ウーチャエノ諸嶋ニ同シ、

第三、コワヂレン諸嶋

本嶋ハ、北緯八度四十一分ニ起リ、同九度十八分ニ盡キ、東經百六十七度  
ニ始マリ、斜ニ東南ニ赴キ、百六十七度四十七分ニ至ツテ盡ク、地勢、西北  
ヨリ東南ニ奔リ、長サ、八十五英里、幅員、二三英里ヨリ十二三英里ニ出入  
シ、全嶋ノ形狀ハ將ニ嘶カントセル馬頸ノ如シ、

嶋ノ北方百三十一哩ニシテ、ロングリック嶋アリ、東北百哩ニシテ、リキ  
エブ嶋アリ、東方百三十五哩ニシテ、ウツヂエ嶋、及、エリコップ嶋アリ、東  
南東百八十哩ニシテ、マロングラープ嶋アリ、百九十五哩ニシテ、アウル  
嶋アリ、東南二百十哩ニシテ、マシエロ嶋アリ、東南南三十五哩ニハ、ナ

モ島アリ、南方廿八哩ニハ、エンリープ島アリ、西方五十哩ニハ、ラエ島アリ、六十七哩ニハ、ウーザヤエ島アリ、西北七十哩ニハ、ツチャッド島アリ、嶋内山嶺河湖ナシ、土地低ク、平坦ニシテ、海面ヲ抽ク纒ニ一丈ニ過キス、海岸ハ岩礁脈絡ヲ爲シ、海水ヲ包ミテ三大港ヲ成ス、其一ハ長形ニシテ、長サ、廿哩、幅員四五哩ヨリ、十哩ニ出入シ、港灣ノ中央ヨリ、各嶋嶼ヲ指點スル能サル所アリ、其二ハ稍方形ニシテ長サ八九哩、幅七哩、其三ハ楕圓形ニシテ、幅二哩、長サ三哩、何レモ波平カニシテ水深ク、大船巨舶ノ出入最モ便ナリト雖モ、素ト這嶋タル群嶋中、極メテ暴風ノ烈シキ處ナルヲ以テ、喬木、稀レニ、舟行甚險ナリ、

全嶋合セテ、大小六十其名稱左ノ如シ、

コワシレン嶋(周圍、七英里) エピシエ嶋(周圍、五英里) ビケイチ嶋(周圍、五英里餘) ミーク嶋(周圍、五英里半) チムル嶋(周圍、六英里餘) ルーワ嶋(周圍、

四英里) アルバーエ嶋(周圍、十六英里) エバメン嶋(周圍、四英里) エハツ嶋(周圍、四英里) エヌマー嶋(周圍、七英里) テル嶋(周圍、五英里) モルレ嶋(周圍、六英里半) ラーボ嶋(周圍、四英里) ボヌマツ嶋(周圍、五英里) エテルラプガン嶋(周圍、三英里半) エニヅエ嶋(周圍、四英里) ウシシアイヤ嶋(周圍、三英里) ラルベッパ嶋(小嶋ナルカ故ニ、見分セス、以下全斷) エピシエリク嶋、ヂエルイク嶋、ハイシエイエン嶋、クギヨアケイエ嶋、エヌベドック嶋、グシニグーハ嶋、カワガルン嶋、エチリキリック嶋、エンブン嶋、ムリウ嶋、エルロ嶋、ヲヌーワト嶋、ビグラン嶋、ムレヌグ、チ嶋、エシヤラシク嶋、ボカン嶋、エニシヤプロツク嶋、ゲゴツ嶋、ノシヤット嶋、リキリンク嶋、子ンナール嶋、シヤボタツク嶋、エニヤロ嶋、エレナ嶋、アウエ嶋、ホツザ嶋、シヤベック嶋、ギシリッゲ嶋、エレー嶋、クウレル嶋、シヤカハ一嶋、ピカントル嶋、エチロ嶋、ボゴレシマン嶋、メルウイ嶋、ガエ嶋、ニ



島、ベック島、ベカン島、キーギー島、サルウイ島、ウーシ島、

第四 ウーヤヤエ諸島

本島ハ、北緯八度五十四分餘ニ起リ、九度十五分ニ盡キ、東經百六十六度一分餘ニ始マリ、斜ニ南東ニ延ヒテ、百六十六度十二分ニ至ル、幅員凡三哩ヨリ五哩ニ出入シ、地勢西北ヨリ斜ニ東南ニ赴キ、其長サ二十一哩ニシテ、全島ノ形状、恰モ拳ヲ握リタル腕ノ如シ、

東南百三十哩ニシテ、ロンゾラーア島アリ、百四十哩ノ處ニ、ロングリツク島アリ、西北四十哩ニ當リテ、ラツド島アリ、コワヨレン島ハ、東方五十五哩ニ、ラエ島ハ十七哩ニアリ、東南東、凡十哩ニ當リテ、エンリーブ島アリ、東南南、及正南ハ、大洋ニ面ス、

西南二百八十哩ニ、コダイツク島アリ、本島ハ、マルシャール群島ノ所屬ニ非ス、西方、二百八十五哩ニウーシラン島アリ、

西北二百六十哩ニシテ、エニベドック島アリ、全島合セテ其數十三、

ウーチャエ島(周圍、七英里)ナコバ島(周圍、三英里餘)エベシヨ島(周圍、六英里半)アイチラムイ島(周圍、六英里)ホ島(周圍、三英里半)ロワ島(極メテ小島ナレハ見分セス以下同斷)アヌイ島、オーヨヤツク島、ベチカル島、ベック島、アールレ島、マヌムラエ島、バコエレ島、

此ノ中土人ノ住居セルモノハ、唯三箇ノミ、餘ハ皆海上ニ點綴シテ恰モ、碁子ノ如ク、土民之ニ住ヒス、唯橋林相連リ、黄果累累、翠陰嶋嶼ヲ蔽フ、嶋民之ヲ食シテ生活ス、嶋中椰子、大薯ノ類、非常ニ繁殖シ、僅僅タル島民ノ能ク採リ盡ス所ニ非ス、空シク地上ニ墮テ腐敗スルモノ十中ノ八九ニ居レリ、誠ニ惜ムヘキノ限リナリ、

島ノ内部ハ、平坦ニシテ、山嶺ナク、海面ヨリ突出スル、纔カニ、七八尺、遠ク之ヲ望メハ、山脈ニ似タレト、近イテ、之ヲ檢スレハ、皆樹梢ノ聳立スル者

ノミ、是ヲ以テ、六七英里ノ近キニアラサレハ、船上ヨリ島嶼ヲ指點スル能ハス、然レトモ、是レ獨リ本嶋ノミニ非ス、各嶋皆然リ、嶋内河湖ナク、處々ニ小池アリ、其水清淨ニシテ掬スヘク、水草モ亦繁茂スト雖モ、水中一尾ノ小魚タモ見ス、

海灣ハ岩礁連亘、蜿蜒トシテ海水ヲ抱キ、宛然、盆上ノ水ノ如ク、自然灣環ヲ成セリ、其ノ廣サ横四五哩ヨリ一二哩ニ出入シ、縱ハ二十哩許、盤礁ノ脈絡ヲ追テ許多ノ嶋嶼ノ點綴スルアリ、灣内ノ潮甚メ清ク、其深キ處ハ四五十尋ヨリ、淺キハ十五六尋ニ及ヒ、其最モ深處ニ至ツテハ得テ量ル可カラズ、嶋嶼ニ接近セル海底ハ、一面岩礁ニシテ、深サ七八呎ヨリ五六呎ニ至ル、全灣港形ヲ爲セルヲ以テ、船舶ノ碇泊極メテ自在ニ加之、颶風ノ時、猶、洪濤ノ起ル事ナク、間々數座ノ暗礁アレドモ、其色悉ク白色ナルヲ以テ、所在ノ水光薄藍色ヲ探シ、天氣晴朗ノ日ニ當ツテハ、遠クヨリ之

ヲ望ムモ、容易ニ指點シ得ベク、各嶋ノ港灣、大概斯ノ如シ、灣ノ外側ハ、沙茫タル大洋ニシテ、絶テ暗礁ナキノミナラス、又一物ノ眼界ヲ遮ギル者ナシ、

因ニ云フ、曾テ米國ノ帆走船ヲヒヤ號カ太平洋中ニ於テ、暗礁ニ觸レ、破碎セシト云ヘルハ、即チ本嶋ノ灣礁ニ乗上グシモノニシテ、現時、猶、其船体ノ破レテ礁上ニ存スルアルヲ見ル、

海門ハ、三ヶ處アリト雖モ、甚タ狹ク、且ツ、淺クシテ大艦ノ出入ニ便ナラス、其ノ最廣ナル者モ幅一二町ニ到ラス、其深サモ、亦、太約十三尋ヨリ十五六尋ニ到ル、然レドモ、其ノ港口ハ、礁石斗出シテ自ラ保護ヲ船舶ニ與フル所アルカ故ニ、茲處ニ碇泊シテ嶋内ノ產物ヲ積載スルヲ得ベシ、

#### 第五 諸嶋

本嶋ハ、北緯八度五十八分ニ起リ、九度四分ニ至ツテ盡キ、東經百六十六

度二十五分ニ起リ、三十分ニ至ツテ盡ク、東南ノ二面各五哩、西北ノ兩面各六哩アリテ、殆ト方形ヲ形造レリ、四面繞ラスニ磐礁ヲ以テシ内ニ十八嶋嶼ヲ基布ス、

即チラエ嶋、リボン嶋、ルウイ嶋、ラメン嶋、ボコナイドック嶋、エチレイン嶋、エチイナモナン嶋、アルカレック嶋、ユニビジョー嶋、エニシャルドック嶋、エチマター嶋、ベケナイエ嶋、ルイジャツア嶋、レーブ嶋、ブウイ嶋、ヒキラベック嶋、ラメリキリツク嶋、ラメイヨラツア嶋是ナリ、

此ノ内大ナル者ハ、只、二箇ノミニシテ、他ハ皆、豆大ノ小島ナリ、海門ハ、唯一ヶ所ニシテ、嶋ノ西南南隅ニ在リ、其廣サ十間ニ出テズ、深サ十尋ヲ超ヘズ、潮汐頗ル急ニシテ、船舶ノ出入、甚タ危険ナリ、嶋内山嶺河湖ナク、草木繁茂シテ、椰子頗ル多ク、土民ノ毎日之ヲ採取スルアルモ、到底尽クス能ハサルガ如シ、而シテ又、ゴブラノ産出最モ多ク、

群嶋中ノ第一位ヲ占メ居レリ、

群嶋中キョウシマ驕奢ヲ好ムノ風ハ本嶋土人ノ右ニ出ツル者ナク、其家屋及衣服等ノ如キ、豪ゴウヲ競ヒ、華カヲ尚ウラガトヒ、又頗ル舟楫ニ富メリ、

北方百二十四英里ニハ、ノイギナーエ嶋アリ、百五十英里ニシテ、ロングラーブ嶋アリ、百四十五英里ニシテ、ロングリツク嶋アリ、東方三十五英里ニ、コワジレン嶋アリ、東南七十英里ニ、エンリーフ嶋アリ、西方十七英里ニ、ウーデヤエ嶋アリ、西北五十五英里ニ、ウヲツド嶋アリ、

瑪助查爾群嶋中ノ、有人嶋ニシテ、最小ナル者ハ本嶋ニシテ、住民纔ニ、一百人、唯一嶋ニ住居シテ、餘ノ十七ハ皆無人嶋ナリ、

瑪助查爾群嶋三十二箇ノ名稱、及人員

リキエブ嶋、住民、凡三千人、○ウツルツク嶋、全、二千人、○アイルツク嶋、全、二千三百人、○メヨルト嶋、全、二千人、○マヲエロ嶋、全、千三

百人○ウーザエ嶋、全、百人○ミコレー嶋、全、千三百人○シヤリウー  
 ト嶋、全、三千人○エンリーブ嶋、全、二百人○ラエ嶋、全、百人○ウチ  
 ド嶋、全、廿人○ロンクラブ嶋、全、四十人○ヒキニー嶋、全、廿人○ガ  
 スパリスコ嶋、不詳○ヒカール嶋、全、○エリコブ嶋、全、○ジョエーモ  
 嶋、全、○マログラブ嶋、住民凡二千、○ラジャ嶋、全、千二百人、○ナーモ  
 嶋、全、八百人、○キリー嶋、不詳○ナモリック嶋、住民凡千人、○ウヂラン  
 嶋、全、廿五人、○チャハ嶋、全、十五人、○ロングリック嶋、全、六十人、○  
 アイリキナイ嶋、不詳○ウツツザト嶋、住民凡六百、○エボン嶋、全、二  
 千人、○アウノ嶋、全、二千人、○コワジレン嶋、全、一千人、○アルノ嶋、  
 全、三千百人、○エヌベドック嶋、全、十人、

右ニ掲ケタル數箇ノ嶋嶼ハ、何レモ大同小異ニシテ、皆數十ノ嶋嶼點々  
 連絡シテ、一群ヲ爲スモノナレトモ、獨リエンリーブ嶋ハ只一嶋ナリ而

シテ群島ニ住スル土蠻總數、僅ニ三萬餘人、其酋長チ、ラポント云フ

吾人ハ既ニ瑪助查爾群島中ノ重ナル島嶼ヲ掲ケ、其位置形勢ヲ示シ  
 タレバ是ヨリ進ンテ群島ノ氣候、晴雨、地質ノ厚薄、草木ノ種類及ヒ島  
 主ノ性質、權力、土人ノ風俗、物産等ニ就キ、記憶ニ存スルモノヲ説明ス  
 ル所アラントス、讀者乞フ、編者カ微意ノ存スル所ヲ察シ、幸ニ此些些  
 タル小群島、猶以テ富國ノ一原タルヲ諒知セバ亦編者カ苦辛經營ノ  
 勞空シカラザラントス

第六 瑪助查爾群島ノ氣候、並ニ晴雨ノ多少、

氣候、冬季ハ大概華氏ノ百度、以下九十四五度ノ間ヲ昇降シ、夏季ハ百  
 五六度以上百十度ニ至ルト云フ、斯ク極熱極寒ノ時ト雖モ、其差僅ニ十  
 五六度ニ過キス故ニ氣候ニ春秋ノ別ナク、草木ニ榮枯ノ變ナク、舊枝ハ  
 實ヲ結テ累累珠ヲ垂ルレバ、新條ハ花ヲ發テ馥郁香ヲ放ツ、幽翠陰森慕

春ノ如ク、又孟夏ノ如ク、四時翠ヲ含テ、其景極メテ佳ナリ、晴雨ノ多少、前既ニ述ヘタルカ如ク南洋諸島ノ常トシテ一日モ、驟雨ノ至ラサルナク、又雨毎ニ大低震電ヲ伴フ、其度數少キハ一晝夜ニ一二度、多キハ五六次ニ及ブコトアリ、降雨ノ時間ハ大凡四五十分間ナレドモ、久シキハ往々二時間乃至三時間ニ至ル、其將ニ雨ラントスルヤ、海天俄カニ暗黒ニ變シ、風濤怒號シ、驟雨次ヲ來リ迅雷轟キ、電光閃ク櫛ハ、恰モ天柱摧ケ地維壞レテ、豆大ノ小群島ハ盡ク波底ニ沒セントスルモノノ如ク、此荒マシキ光景ハ、一時吾人ノ肝胆ヲ寒カラシムルト雖モ其晴ルルニ及デヤ、海天一色、草木ノ枝葉ニ滴ル小球ハ、大陽ノ光線ニ映ワテ五彩ヲ顯シ、清涼ノ氣ハ此小乾坤ニ充滿シ、曩ノ苦熱畏懼ノ念慮ハ、拂ヒ去ツテ痕跡ヲ存セズ、轉タ爽快ノ情ヲ感セシム、又造化自然ノ妙ナリト言フベシ、是レ所謂「スクオール」ト稱スル者ナリ、左レハ群島中ノ航海ハ、

甚タ危険ニシテ、船舶ノ之カ爲ニ沈没スルモノ少カラス、然レモ本邦ノ如ク霖雨ノ煩悶ヲ惹クモノナシ、是亦一ノ天幸ト謂フヘキナリ、

#### 第七 地質ノ厚薄、及草木ノ種類

地質總テ滑カニシテ黄黒色ヲ雜ヘ、草木能ク成長繁茂ス、沿岸礫礫ノ地ト雖モ、猶ホ雜草ノ葱葱タルヲ見ル、深林亦頗ル膏腴ノ地多ク、椰子大薯ノ類、疊疊地ヲ蔽ヒ、老枝新條相接ツテ花發キ果熟ス、又草木ノ生長スルコト極メテ速カニシテ今朝斬刈シテ明朝其萌蘖ノ寸ニ迄ブテ見ル、其種類夥多アリト雖モ、概スルニ本邦伊豆、駿河等ノ田園ニ産スルモノト全シ若シ島内廣ク、他ノ患害ナクシテ、開墾播種ノ勞ヲ執ルモノアラハ、全島悉ク良田沃土タルベシ、唯惜ムラクハ各島狹隘ニシテ、且樹木ヲ乱伐スレハ海風吹キ暴ルルノ憂アリ、去レハ全島ヲ以テ一牧場トナシ、牧畜ヲ以テ業トセハ充分ノ利益ヲ得ル亦難カラザルベシ、現ニ無人ノ島

嶼中ニハ、豚ノ如キ動物ノ生活スル者アリテ、其肥大ナル内地ノ豚ノ比ニアラス

#### 第八 土人ノ政治、法律、官制、及、宗教、

社會原始ノ状態ヲ見ント欲セバ、去テ本島ニ遊ベ、本島ノ政治ハ實ニ社會原始ノ状態ヲ描キ出タセルモノナリ、去レハ別ニ民ヲ統フルノ政治ナケレハ、又罪ヲ正スノ法律モ明カナラス全島ノ主權ハ悉ク島主ノ掌握ニ歸シ土人ノ生命財產、皆島主ノ意ニ從ツテ處分ス、故ニ島主ノ感情ハ則チ政治法律ノ命令者ニシテ、其決意ハ則チ之カ執行者ナリ、刑罰ノ種類多シト雖モ、重ニ行フ所ノモノハ銃殺、斬殺、縊殺ニ過キス、其稍ヤ官制ニ近キ者ハ即チ島主一人、各島酋長各一人ニシテ、島主之ヲ支配シ各酋長ハ王命ヲ奉シテ、各島牧民ノ職ニ當ルアルノミ

土人ハ一般無宗教ナリ、曾テ米國ノ宣教師、本島ニ渡航シタル際、プロテ

スタント教法ヲ、王族ノ一人ナルローアイク、フルライノナル者ニ傳ヘ、ローアイクハ、又之ヲ土人ニ布教セントシタルモ如何ニセン大聲ハ俚耳ニ入ラス、一人ノ之ヲ靜聽スルモノナク、却テ嘲笑シテ共ニ齒セサルニ至レリ、唯オジヤ島ノ土人ノミ、間、教法ヲ講シ、徳義ヲ談スルモノアリテ、頻リニ聖書ヲ習讀シテ、酒煙草ヲ禁シ淫事ヲ慎ミ、朝夕天神ヲ禮拜スルモノアルモ、他ハ皆五里霧中ニ彷徨シテ道德ノ何タルヲ解スルモノナシ、且布教ニ從事スル者ト雖モ、往々貪婪放恣ニシテ其私行ヲ修ムル能ハサル者アリト云フ、余私ニ想フ、文明ノ大氣ヲ呼吸スル吾人ノ社會ニアリテサヘ、之ニ類スル者、亦尠カラズ、況ンヤ渾沌無智ナル彼レ蠻族ニ於テチヤ、宜ナリ大聲ハ俚耳ニ入ラサルコト

#### 第九、土人ノ曆日

歴數ナル者ハ社會歴史ノ發達ト共ニ發達シ、事物ノ複雜ニ赴クニ從テ、

曆日ノ必要ヲ感セシメ、又時季ノ變遷ハ曆日ノ整頓ヲ促スモノナレトモ、此等土人ノ如キ野蠻蒙昧ノ域ヲ脱セサル人民ニハ歴史ノ必要モナク、又群島ノ位置、赤道線ニ近キヲ以テ、時季ノ變遷ニ大差ナケレハ從テ曆日ノ整頓ヲ促スモノモナシ、唯僅ニ大陽ノ出沒ニ因テ晝夜ノ別アルヲ知ルノミ、廿四時間ノ果ノ一晝夜ナルヤヲ知ラス、況ヤ三百六十五日ノ一年ナルヤ、試ニ土人ニ其年齡ヲ問ヘ、ハ聾啞ト一般、嘿トシテ答フルコト能ハス、然レトモ月ノ顯ハレシヨリ再ヒ顯ハル、迄ヲ一ヶ月トナシ、日子ヲ數フルコト、昨日、一昨日、一昨昨日、今日、明日、明後日、明明後日ト稱スルヲ知レルヲ見レハ、亦稍其ノ一斑ヲ解スルヲ得タリト云フヘキカ

## 第十 土人ノ婚姻

倫理隱伏シテ、未タ其光輝ヲ發セズ、父子相犯シ、兄妹相通シ、絶ヘテ婚嫁

ノ禮アルヲ知ラス、斯ル中ニモ稍夫妻ノ如キ觀ヲ爲スモノ間、無キニアラスト雖モ外人ノ上陸スル者ヲ見レハ淫ヲ嚮ギ春ヲ賣リ、甚シキハ情人自ラ媒ヲ爲シ、報酬ヲ求メテ止マスト云フ、斯ル風習ナルヲ以テ男女共ニ婚姻ノ念ナク、現ニ島主ノ如キハ六人ノ妃ヲ有シ、悉ク一室ニ雜居セシムルモ、互ニ相親和シ落花秋扇ノ嘆ヲ發スル者アルヲ聞カス、然レトモ、土人カ他島土人ヲ見ルコトハ、恰モ秦人ノ越人ニ於ケルカ如キヲ以テ、決シテ相奸通スルコトヲ爲サズ、亦一奇ト謂フヘシ

## 第十一 土人ノ疾病、醫藥、及、葬式

明日アリト思フ心ノ仇櫻、夜半ニ嵐ノ吹カヌモノカハ「下」詠シテハ誰カ人生ノ果敢ナキヲ嘆セサラン、去ルニテモ其果敢ナキヲ果敢ナシトモ悟ラザル、慄慄無智ノ蠻民モ、一朝病魔ニ侵サレテハ永ク逝テ歸ラサルノ客ト爲ル衷レサ、幸ニ吾人文明ノ世界ニ在リテハ衛生ノ術醫藥ノ法

アリテ以テ天死ヲ救ヒ、以テ病患ヲ除クノ道、備ハレトモ、此等絶海孤島ノ蠻族ニ至テハ則チ然ラス、一朝健康体ニ變動ヲ生スル時ハ、病症ノ輕重ヲ問ハズ、之ニ施スノ術ハ、唯椰子油ヲ塗り、或ハ之ヲ服用スルノミ以テ死生ヲ自然ニ放任セリ、豈ニ憐ムベキノ至リナクヤ、然ルニ天幸トモ謂フベキハ、此等土人ノ常トシテ、其疾病タル概シテ外科ニ止マリ、内科ニ屬スルモノニ至テハ、甚タ稀ニシテ、從テ天死スルモノ割合ニ多數ナラス、土人ノ多ク患フルハ一種ノ皮膚病ヨシテ、十中八九總ハ大抵該病ニ罹ラサルモノナシ、今其患者ノ模様ヲ言ハンニ、全身糜爛シテ暗黒淡紅色ノ斑点ヲ顯ハシ、就中足部臀部ニ大瘡ヲ發スルモノハ、膿血流出シテ臭氣甚シ試ニ病者ニ向テ其容体ヲ問ヘハ、苦痛甚シカラス、却テ痒キコト非常ナリト答フ、其故ニヤ、該患者ハ晝夜身ヲ火邊ニ置キ終始摩搔シテ寸時モ間斷アルナシ、其嫌惡スヘキ吾人ヲシテ一見嘔氣ヲ催

サシムルモ、土人ハ敢テ意ニ介スルノ色ナク、患者ト談笑スルコト平常ニ異ナラサルハ、實ニ怪シムヘキ程ナリ、該皮膚病タル恰モ天刑病ノ如クナレトモ、時ニ全愈シテ些ノ痕跡ヲモ留メサルヲ見レハ、遺傳不治ノ惡疾ト全シカス、其病理ノ如キニ至テハ種々ノ原因アルヘケレトモ、吾人ハ他日醫博士ノ研究ヲ待タンノミ又女子ハ分娩後六七ヶ月ヲ經レハ、大概眼瞼ノ如キ一種ノ皮膚病ニ罹リ、往々死ニ至ルモノアリト云フ埋葬ノ事ニ至テハ、棺モナク、槨モナク、猶更格別ノ儀式モナク、纔カニ一抔ノ土、之ヲ蔽フノミ唯島主、及酋長ノ埋葬ニハ穴ノ深サ大凡、二尺以上、二三尺余ノ小丘ヲ造リ、頭部及足部ノ埋マレル兩邊ニハ、櫓形ノ標ヲ建テテ、僅ニ墓碑ヲ殘スノミ、其葬送トテモ二人ノ土人カ舁ヒ行クニ過キス、島主酋長既ニ斯ノ如クナルヲ以テ、他ノ土人ニ至テハ猶本邦人カ犬猫ヲ埋ムルト一般、日ナラスシテ風雨ノ爲メニ土砂ヲ掃蕩セラレ其醜



骸ヲ露出シテ、禽獸ノ枯腹ヲ肥スノミ、是ヲ以テ葱葱タル茂林中白骨ノ累累タル吾人ヲシテ轉々悚然タラシムルモノアリ、然レトモ土人ハ之ヲ顧ルモノナク甚シキハ之ヲ足下ニ蹂躪シテ、毫モ怪ム者ナシ、嗚呼是ヲシモ忍ブヘクハ孰レヲカ忍ブヘカヲサラン

## 第十二 土人文身法

開化ノ度未タ高カラス、美術ノ念未タ發達セサル野蠻人ニアリテハ往々文身ヲ以テ美術ト爲シ、文身ノ多少ハ其人ノ地位名譽ニ關スルカ如キ習慣ヲ爲スコトアリ、此等群島ノ土人モ亦文身ヲ好ミ、種種ノ模様ヲ彫リ、以テ此上モナキ名譽トナセリ、然レトモ其模様及文身スル部分ニ至リテハ、各自ノ隨意ニ一任スル能ハズ、其肩ヨリ脇腹及臑ニ文スルハ獨リ島主ノミ、腕ニ密文スル者ハ、王妃及王族ノミニ限レリ、而シテ此等貴族ノ模様ハ、殆モ本邦ノ豆絞リ形ノ如ク、背部及胸部ニ文シ其形三角四

角、或ハ圓形ナルハ普通土人ノ文身ニシテ、腕ニハ唯洋字樣ニ彫レルノミ、婦人モ亦稀ニ文身スルモノアリテ、或ハ眉端ニ點シ或ハ口ヨリ耳ニ掛ケ、其容貌極メテ奇異ナリ

今土人カ文身ノ方法ヲ聞クニ、銳尖ナル眞珠貝ヲ以テ皮膚ヲ刺銜シ、脂多キ樹ノ炭ト、椰子油トヲ混シテ其上ニ塗り込ミ、而ル後自然ノ平愈ヲ待ツト、云フ然レモ曾テ一人ノ力爲ニ患フル者アラズ嗚呼文身ハ實ニ野蠻ノ陋習ナリ、然レトモ此ニ因テ美術心ノ發達ヲ望ムベク、名譽心ノ興起ヲ期スベシ、然ラハ則チ此等ノ陋習モ、亦以テ開化ノ域ニ到達スベキノ楷梯タルニ足ランカ

## 第十三 土人衣食住及習慣

蓬頭垢面、唯アルメ、樹ノ皮ヲ編ミテ篋ヲ作り、パンダナノ葉ヲ織リテ筵ヲ製シ、以テ僅ニ腰部ヲ掩ヒ、跣足ニシテ日中ヲ奔走スルハ、土人一般ノ

風俗ナリ、然レモ島主ハ平生白キ背廣服ヲ着セリ又海濱常ニ外船ノ來往スル所ノ住民ハ、大抵洋服ヲ用ヒ女子ハ概テ赤地ノ更紗ヲ以テ西洋婦人ノ襯衣様ノモノヲ作リテ之ヲ襲ヘリ、裝飾ノ如キハ随分華麗ニシテ吾人ヲ驚カスニ足ルベキモノアリ、男子ハ又「パンダナ」ノ葉ヲ以テ製シタル帽子ヲ戴ク、土人之ヲ稱シテ「ハート」ト云フ、蓋シ英語ノ「ハット」ヨ就中最モ奇異ナルハ男子幼ヨリ耳朶ニ一孔ヲ穿チ「キエツ」ト稱スル草葉ノ如キモノヲ挾サミ、長スルニ及ンテ耳朶漸ク大ヲ増シ、其吼モ隨ツテ大トナリ、終ニハ直徑二寸許ニ達スルニ至ルアリ、常ニ椰子又ハ「パンダナ」ノ葉ヲ卷キテ、環ヲ造リ之ヲ挾ム、若シ其環ヲ抜キ去ルルハ、耳朶垂レテ肩ニ至ル、彼漢土ノ劉玄徳其人ノ如キモ、本島ニ於テハ敢テ異相ト稱スルニ足ラサルナリ、亦奇異ノ習慣ト云フヘシ

土人ノ常食ハ椰子ノ果實ヲ以テ第一ト爲シ、魚肉「パンダナ」及ヒ大薯ノ

果實等、之レニ次ク又葛ノ粉ニ椰子ノ粉ヲ混和シ、之レヲ涅ノ餅トナシ大薯ノ葉ニ包ミ燒テ之レヲ食フ、味頗ル清淡ナリ、飲料ハ椰子ノ菓實未ダ熟セサルニ當リ、其核肉ニ含ミタル液水ヲ絞リテ飲料トナス、其味搾椽ニ砂糖ヲ和シタルカ如ク、清涼賞スヘシ、然レモ一奇トモ云フヘキハ、古來萬國如何ナル野蠻ノ時代ニモ、酒ノ如キ人心ヲ麼睡セシムルノ飲料ハ、必ス有スルモノナルニ、該群島ニ於テハ、未ダ此等ノ飲料ヲ醸造スルヲ知ラスシテ、唯外人ヨリ得タルモノヲ嗜好スルノミ、又椰子ト「パンダナ」ト、芭蕉ノ實ト、ヲ混和シテ椰子「パンダナ」等ノ葉ヲ以テ、堅ク緘封シ之レヲ稱シテ「エツ」ト云フ、味佳ニシテ而モ藏スルヲ久シキモ、決シテ腐敗等ノ憂ナシ、熱帶地方航海ノ時杯ニハ適當ノ食物ナリ、

土人ノ食物ハ、通常斯ノ如ク、吾人ノ嗜好ニ適スルモノ少カラスト雖モ、其食法ニ至リテハ、猿猴ト一般ニ等ナク、器皿ナク又一定ノ食時ナク、火

食ヲ知ルト云フモ、只烘炙ノミニシテ、曾テ烹熟ノ如何ヲ知ラス  
 其家屋ハ小木ヲ交叉シテ、椹葉ヲ以テ之ヲ葺ク、大ナルモノハ三四人ヲ  
 容ルヘキモ、小ナルモノニ至リテハ、匍匐シテ漸ク内ニ入ルヲ得ルノミ、  
 酋長ノ家ト雖モ別ニ宏大ナルコトナシ、此等ノ小舎ハ處在ニ散点シ、其  
 狀恰モ本邦田舎間ノ肥料小屋ニ髣髴タリ、故ニ人若シ島内ヲ旅行セン  
 ト欲セハ、常ニ小屋ヲ携帯セサル可カラズ、加之土人一般ニ燈火ヲ用ユ  
 ルコトヲ知ラス、故ニ外人ノ島内ヲ旅行スルニハ、萬事ニ不便ナルコト  
 尠カラズ、

## 第十四 土人木燧ノ法

曩ニ述ヘタルカ如ク、該群島ノ氣候タル四時不變ナルカ故ニ、一般屋裡  
 ニ暖爐ヲ設クルノ必要ナク、唯食物ヲ烘炙スルニ用ユルカ爲ニ、火ノ必  
 要アルノミ、故ニ所在小舎ヲ去ル數歩ニシテ、石ヲ据エ置キ、其陰ニ於テ

篝火ヲ設ク、其火ヲ点スルノ方法ハ、先ツ木ト木トヲ交叉シ、ニケノ×字  
 形ヲ作り、之ヲ兩側ニ植ヘテ上ニ「アイヨンウード」ト稱スル木ヲ衝截セ  
 シメ、種々ノ燒料ヲ其中央ニ堆積シ、手ニ「アイヨンウード」ヲ摩擦シ以テ  
 火ヲ發スルモノナリ、故ニ一度火ヲ發セシメントスルニハ少クトモ四  
 時間余ヲ費スニ非レハ、能ハス宜ナリ、本島ニ於テ「マツチ」一箇ノ金貨一  
 弗ニ價スルコトヤ

## 第十五 土人人肉ヲ食スルノ法

四隣鬩トシテ夜正ニ深ク、椰葉月ヲ洩ラシテ人面青シ只見ル、剛樂五六  
 頰邊血汁ヲ染メ、舌ヲ鼓シテ噬喫ス、恰モ口角ノ裂ケテ耳下ニ在ルカ如  
 シ、怪ム是レ鬼カ、夜刃カ、將タ人歎、嗟是レ土人カ人肉ヲ食スルノ有様ナ  
 リ

土人ノ外人ヲ屠殺スルヤ先其屍体ヲ砂中ニ埋メ、而シテ後之ヲ掘出シ

其一部分ヲ截リ、パンダナノ葉ヲ以テ堅ク包ミ、其儘裂火ノ中ニ投シ外層燒焦シ、人肉ノ熟烹セル頃、火中ヨリ出シ徐ロニ其味ヲ賞スルナリ、嗚呼想ハサリキ、此兇暴無殘ナル所爲ノ十九世紀ノ地球上ニ、而モ文明人カ來往スル航路ノ中間、ニ横ハレルアラントハ、然レモ近來此惡習ハ漸次消滅ノ傾向アリト云フ、吾人ハ信ズ、是等食人種族ハ文明ノ空氣漸ク流通スルニ從テ、生存ノ競争ニ、自然ノ淘汰ニ、跡ヲ全世界ニ絶ツコトノ遠キニ非ルヲ

## 第十六 土人ノ航海

群島ノ位置タル、渺渺タル蒼海ノ面ニ碁布點綴シテ、遠キ者ハ數百哩、近キモ五六十哩ノ距離アルカ故ニ、隣島ニ航スルサヘ、容易ニ爲シ能ハザルニ加ヘテ、土人カ用ユル船舶ハ其製極メテ粗惡ニシテ、遠洋航行ニハ最モ不適當ノ者ナレドモ、蠻民ノ之カ改良ヲ謀ル者ナク、現時使用スル

船舶ハ唯、獨木舟アルノミ、此ヲ以テ他隣島ニ航スルコトモ亦從テ稀ナリ、吾人ハ今將ニ獨木舟ノ製造法、及ヒ航行ノ様ヲ説カントス  
獨木舟ハ大薯樹ヲ以テ造ル、然レトモ彼等土人ハ鋸斧等ノ利器ヲ有セズ、故ニ其製造ノ困難ニシテ、時日ヲ費スコト非常ニ多シ、今其法ヲ聞クニ、尖貝ヲ以テ大薯樹ノ根ヲ削リ、數日ニシテ漸ク細ク大風ノ來テ樹幹ヲ倒スヲ待チ、然ル後ニ適當ノ長サニ截切シ、幹ノ一面ヲ燒キ又尖貝ヲ以テ其炭粉ヲ抉削シ、次第ニ樹幹ヲ穿テ漸ク船ノ容積ヲ造リ、又全方法ニ由リ舳艦船底ヲ造リ、始テ一船体ヲ爲スモノナリ船体ハ種々ノ貝類ヲ以テ裝飾ヲ施ス、現ニ島主所有ノ者ノ如キハ最美麗ヲ盡セリ其形小ナルモノハ長サ六尺巾三尺ニ過キズ、其中僅ニ二三人ヲ容ルベシ、其大ナルモノハ長サ五間幅一間ニ至ルモノアリ、其船体皆細長キヲ以テ獨リ水上ニ浮フ能ハズ、故ニ船身ノ中央ヨリ、右又ハ左ヘ傾キタル反

側ニ二本ノ衝木ヲ横ヘ浮木ヲ其一端ニ繋ギ之ニ依テ初テ波上ニ浮ビ出ツルヲ得ルナリ然レトモ纜繩ノ小孔ヨリ潮水ノ漏泄スルコト甚メシキカ故ニ航海ノ時ハ必ス二三ノ浚水者ヲ要シ終始船中ノ潮水ヲ浚ハザルヘカラズ若シ暫クニテモ之ヲ休メタランニハ潮水忽チ船中ニ滿テ沈没スルニ至ルヘレ而シテ其船ヲ進行セシムルノ方法ハ櫂ヲ操ル者、舳ニ一人、艫ニ一人、中央ニ一人、帆綱ヲ操ル者一人、都合四人ニシテ如何ナル疾風ヲモ物トモセス極メテ迅速ナル進行ヲ爲ス其巧ナルコト實ニ驚クヘシ

又航海ニ最モ必要ナルハ羅針盤ナリ然レトモ彼等土人ハ此ノ必要器ナク陸ヲ去ル五六哩ニシテ既ニ水天一色眼界尽キサルノ渺茫タル大洋ヲ航スルニ唯太陽ト星辰トアルノミ然レトモ未ダ嘗テ其航路ヲ誤リタルコトナシ經驗老練ノ功亦偉ナリト云フヘシ土人ノ最モ航海中

ニ怖ルルモノハ風波ナリ群島ノ近海常ニ風波荒ク時々颶風起リ一天俄ニ曇リテ海面暗黒咫尺ヲ辨セス霹靂一聲天地ニ轟キ航行ノ船舶杳然トシテ爲ス所ヲ知ラサルカ如キコトアリ是實ニ一大難事ナルニ加フルニ其船体狭小ナルカ故ニ多量ノ飲水ヲ蓄フルコト能ハス故ニ漂蕩スル數日ニ至レハ忽チ飲料水ノ欠乏ヲ告ケ之ヲ求メント欲スルモ鳥影タモ認ムル能ハザルコトアリ偶ニ一嶋ヲ見テ上陸スレハ一滴ノ水ヲモ得ザルコトアリ是亦難事ナレトモ時ニ驟雨ノ來ルニ由リテ渴ヲ醫スルコトヲ得ルノ天幸アリ

## 第十七 土人の漁獵

近來外船ノ此等群島ニ來往貿易スル者時ニ之レアルヲ以テ土人ノ最モ伶俐ナル者往其產物ヲ以テ獵具釣器ト交換シテ之レヲ使用スルモノナキニシモ非サレドモ多數土人カ使用スル獵具ハ實ニ簡單ナル

モノニシテ、或ハ椰子樹ノ一端ヲ尖ラシ、眞珠貝ノ鋭尖ナルヲ附シテ、鉸ノ如クニセルモノ、或ハ眞珠貝ヲ一小魚様ニ削リ、元へ尖リタル具ヲ結ヒ、其端ニ羽毛ヲ付シ、本邦ノ蚊鉤ノ如シ、以テ小魚類ヲ鉤ルモノ等ナリ、特ニ最モ無造作ナル漁獵ハ、椰葉ヲ束テ、篝火ヲ作り、海岸ヲ徒歩シテ魚類ヲ集メ、木刀ヲ以テ之ヲ打殺スルノ法ナリ、斯ク簡單ナル法ナレトモ、土人ノ熟練セルモノハ、十中八九必ス命中セサルコトナシト云フ

## 第十八 土人ノ歌舞

天色玲瓏、嫦娥空ニ媚ヒ、水波影ヲ描シテ清風共容ヲ摧クノ夕、土人相集リテ小會ヲ催シ、二人ノ男子手ニ雞毛ヲ握リ、遠チ擊テ巧ニ四肢ヲ動かス、婦人旁ニ在リテ鼓ヲ擊チ、椰子ヲ伐リテ其中ヲ鑿リ、空洞ト爲シ、鼓ノ皮ヲ以テ張リタルモノ、調テ節シ、踏舞スル數時、之ヲ通常月夜舞踏會ト言フ、又、オルラ「大踏舞會」ト稱スレモノアリ、「オルラ」トハ土語戰爭ノ義ニ

シテ、オルラ「大踏舞」トハ、猶ホ戰爭大踏舞ト云フカ如シ、其法式骨格偉大ナル男子、四十人ヲ撰ビ、貝類又ハ白雞羽毛ヲ以テ頭部ニ飾リ、手ニ三尺棒、若クハ長鎗ヲ持チ、折葉ヲ以テ織リ成セル裝、或ハ筵類ニテ其腰邊ヲ纏ヒ、二隊ニ分列シテ、目ヲ睨ラシ臂ヲ張リ、今將ニ突戰セントスルノ狀ヲ爲ス、其側ニ四五間ヲ距テ、一壇ヲ設ケ、數十ノ婦人、前ニ鼓ヲ置キ列坐ス、踏舞傳令司アリ、一聲令ヲ傳フレバ、婦人鼓ヲ擊チ、ウツク舌嚙々悲歌發ス、此時傳令司、再呼スレバ、男隊ウツク吶喊シテ進ミ、一聲一聲自ラ法アリ開合閃閃トシテ、定視スベカラズ、斯ク必死ヲ極メテ戰フコト數刻、傳令司、令ヲ發シテ曰ク、休メヨ、乃チ婦人ハ樂ヲ停メ、男子ハ戰ヲ休メ、退テ舊位ニ復シ、目ヲ睨ラシ臂ヲ張リ、意氣激スル初ノ如シ、是ニ於テ種種菓物ノ發應アリ、以テ會ヲ終フ

土人ノ言ニ徵シテ、此大踏舞ノ起因ヲ討ヌルニ、全ク戰闘ヨリ變化シタ

ルコトハ、明瞭ニシテ、婦人唱スル所ノ歌ノ如キハ、多クハ、外船ヲ燒盡シ舟子ヲ屠殺シ、或ハ他島ノ蠻族ト戰爭シタル當時ノ光景ヲ意味スルカノ如シ、就中奇トスヘキハ、唱歌擊鼓スル婦人、慷慨遺ル所ナク、愛憎ノ情、禁スル能ハスシテ、終ニ絶倒スルモノ、往々之レアリ、余輩曾テ、ウエトジャー島ニ於テ、此會ヲ見タリシニ、酋長ノ嬖妾、切齒絶倒シタリシカハ、傍觀ノ土人、驚テ之ヲ介抱シ、家ニ昇ヒテ、身ニ椰油ヲ塗リ、口ニ橋水ヲ含マセ、漸時ニシテ回起セリ、又參觀人中ニモ、斯ノ如キ者多シ、其相貌自ラ殺氣ヲ顯ハシ、恐ロシキヲ言フベクモ、アラズ米國ノ宣教師某曾テ土人及酋長ヲ集メ、舞蹈會ノ天理ニ悖戻スルヲ論シタリシモ、恬然耳ヲ蔽フテ、聞カサル真似ヲ爲セリト

蠻民ノ舞蹈、固ヨリ論ナキノミ、然レトモ、其慷慨悲憤、勇氣鬱勃スルカ如キニ至リテハ、吾人轉々感ナキ能ハサルナリ、抑モ夫ノ唱歌舞蹈ナルモノハ、必ス其當時ノ人情世態ヲ現出スルノ反射鏡ナレバ、身ニ教化ノ素アルナク、腕力之レ道理ニシテ、他復ターノ道理ヲ解セザル、蠻民ノ舞蹈、固ヨリ斯ノ如クナルヘシ、然ルニ、教化未タ普及カラサルノ時ニ當テ卒然天理ニ悖戻スルヲ説テ、之ヲ禁セシメント欲ス、宜ナリ、土人ノ耳ヲ蔽フテ去ルヤ、米國宣教師ノ迂濶、何ア其レ甚キヤ、宣教師ヨ、請フ汝ニ問ハシ、汝ノ故國ナル、汝ノ文明ト誇稱スル、諸邦國ノ舞蹈ハ、果シテ、超然其俗ヲ脱シテ、天理ニ合スルガ、果シテ、文明ノ美花ト稱スヘキカ、果シテ、倫理ヲ滅却セザルノ一快樂郷トナスカ、高堂大廈、高ク天ニ聳ユルモ、醜聲時ニ下界ニ泄ル、ヲ如何セン、人ヲ正サント欲スル者、必ス先ワ己ヲ正スヘシ、嗚呼、盍ゾ其ノ本ニ反ラサル、吾人ハ寧ロ土人ノ勇氣ト、土人ノ淳朴活潑潑地ナルヲ感セスンバ、アラザルナリ

## 第十九 土人ノ戰爭

本島土人カ行爲ノ不可思議ニシテ、吾人カ腦漿ニ判知シ難キコトハ、多  
 ナレドモ、最モ不可思議ニシテ、最殘忍ナルハ、土人ノ戰爭是ナリ、其目  
 的タル、財物ノ爭攘ニモアラス、又怨恨復讐ノ爲ニモアラス、唯流血淋漓  
 悲泣輓輶タルヲ見テ、一ノ快樂ト爲スモノ、如シ、去レバ、土人ノ他島人  
 ト戰爭ヲ爲サントスルヤ、必ス先ツ、其塲處ヲ定メ、側ニ一壇ヲ築キ、一隊  
 ノ婦人其上ニ列坐シ、唱歌擊鼓スルコト、オルヲ踏舞會ト異ナルコトナ  
 シ、既ニシテ兩軍相接シ、甲倒レ、乙塗レ、宛然トシテ修羅ノ慘塲ヲ演出シ、  
 良人斃レ、情夫轉スルニ至テハ、彼ノ壇上ノ婦女、相泣號悲鳴シ、甚シキハ  
 絶倒スルニ至ル者アリ、是レ果シテ何ノ爲メナルヤ、悲テ然ルカ、欣ンテ  
 然ルカ、實ニ解ス可カラザルナリ、此等ノ畏ルヘキ、惡ムヘキ戰爭ハ、現時  
 大ニ消滅スルノ傾向アリ、然レドモ、マノワ、アルノ、ノ兩島ノミ、尙往々此  
 事アリ、宜ナル哉、彼等カ、好ンテ、外邦漂泊、船舶ヲ燒キ、其人畜ヲ屠殺シテ、

快トナスコトヤ

## 第二十 土人ノ盜賊

島内ノ物品大トナク、小トナク、悉皆島主ノ所有ニ属シ、土人ハ勿論、酋長  
 ト雖モ決シテ檀ニスル能ハサレバ、從テ盜賊ノ生スヘキ謂レナシト雖  
 モ、會外人ノ上陸シテ、旅行ヲ爲スモノアレハ、夜間其睡眠ニ乗シテ、竊盜  
 ヲ爲スモノナキコアラズ、然レトモ、慄悍暴戾恐ルベキ蠻族ニ似モヤラ  
 ズ、其膽極メテ小ニ、旅客ノ眠ヲ覺シテ、其現狀ヲ認ムレバ、直チニ深林ニ  
 隱匿シテ、又其影タニモ止メス、其狀恰モ黠鼠ノ深夜、餌ヲ索クルモノノ  
 如シ、余嘗テ同行ノ客ト、蠻嶋ニ寄泊セシニ、深夜三更四隣闕トシテ、萬籟  
 聲ナク、感慨胸ニ横リ、眠就キ難キノ時、遇、戶外ニ人足ノ聲然タルヲ聞キ、  
 行テ之ヲ觀レハ、何ソ闕ラン、一兎漢、吾人カ行李ヲ提ケテ、將ニ去ラント  
 スルノ所ナリ、同行ノ一人モ亦之ヲ覺リ、短銃ヲ以テ、其北クルヲ追ヒシ



カバ彼レ遂ニ免カルベカラナルヲ計リ、行李ヲ捨テ、深林ニ隠レ、竟ニ其  
之ク所ヲ失セリ、因テ翌日島主ニ訴ヘ、犯人ノ探索ヲ爲セシモ、終ニ其誰  
人ノ所爲ナリシヲ判スルニ由ナカリキ、嗚呼斯ノ蒙昧無智事理ノ何物  
タルヲ解セタルノ蠻民スラ、猶偷盜ノ非ナルヲ知ルモノ、如シ、人性果  
シテ善ナルカ

第二十一 土人ノ文字及言語

本島文字ナシ、然レトモ言語ノミハ不完全ナカラモ略備ハリ、中ニ少シ  
ク英漢ノ兩語ヲ解スル者アリ、ウーチャエ島ノ酋長ジボシヤ及同島ノ  
婦人レキジャツクナルモノハ、聊カ英語ヲ語リ得ル者ニシテ、曾テ余輩  
ガ備ヒタルバトラ、レレ、ルタシーノ三人モ、巧ヨニ英語ヲ話スルヲ得  
タリ、此等三人ハ、近海ニアリテ、海賊ヲ事トセル英人某ノ部下ニ從  
ヒ、獨乙巡邏船ノ爲ニ捕ヘラレ、其後放タレテ、此所ニ來リシモノナリト

云フ、土人言語ノ一班ハ、即チ左ノ如シ、

- チユワン 一
- ロー 二
- チリユー 三
- エーソン 四
- ターレ 五
- チルジニヨ 六
- チルジニヨ、チユワン 七
- ルーワリド 八
- ルーワリジユ、チユワン 九
- チヨノール 十
- チノール、チユワン 二十一
- (餘ハ總テ倣之、エポー 天、ラーチ地、レイツ 日、アトリユン 月、イジュー 星、クドー 風、ルラン 嵐、アツチンラン 雲、ラウー 雨、ノー 海、ラブノー 波、エル、ラブノー 大波、キジエーグ 火、レレエン 水、ツル 小山、エニー 島、ギル 多ク犬、バーヲ 鳥、イーグ 魚、ドーロ 遠、エハツクド 近、ニ用ユ、ローラン 今日、フリジユ 明日、エツケーン 朝、ポーニン 夜、コワロカール、イリジユ 明後日、エジヤカール 昨日、エアルメ

シヤコワール 一昨日 エナツロカール、ツロツク、シヤコワール  
 一昨昨日 エナツロカール、ツロツク、イリジエ 明明後日 メー子  
 ン 曉 バーラン 頭 エーアジエ 眉ゴリヤツク 髭 ラマン  
 額 ノツチヤン 目 ローチリギン 耳 チツチエン 口レ  
 ラー 舌 グイー 齒 ボツチン 鼻 チムニギー 顎 ローベ  
 ン 胸 ベーシ 手 アノリン 指 テーム 足 アエラン 肩  
 プルー 咽喉 ニヨコゼンヒユツク 腕 チムニベーク 臂  
 ゴール 頭髮 アノギン 瓜 イツチン 男ノ乳房<sup>チアブ</sup> ニニン 女  
 ノ乳房 ヒヨ 涼 メノクワール 暑 カブワー 島主 キン  
 酋長 マーシ 男 カーラ 女 チエーマ 父 ナニユー 母  
 テデエン 夫 パーレン 妻 チヤツ 兄弟 チラールラーア  
 老人 ニグニク 小兒 テツシヨシ 奴隸<sup>ドレイ</sup> グワ 私 ゴエ 汝

ヌツクヌツク 着物 マガイ 食物 エンム 家 アワー 舟  
 ウイツラエ 帆 ギンユー 帆檣 チヨボエ 舟ヲ撐ク物 ルー  
 ラン 棒又ハ鎗 ドー 繩網 ゲツチ 捕鳥器 ハーニワキ 粉  
 ヲ造ル器 チヤヒエ 水鉢 ボカボツク 庖刀 イーエワブ 籠  
 ベー 枕 イヤコエワク 今日ハ コンモール 左様ナラ ゴ  
 エンギーギー 御寢ナサイ ゴエン、ニロワク アチラへ行ケ ゴ  
 エン、ニドツク コナラへ來レ カーイワチ レータイラ 與<sup>ア</sup>フ  
 カニユツク 貴キニ向テ レドツク クダサイ センマン 宣シ  
 イ エナーナ イヤダ カイカナン 好ム カイカナン、ジヤラ  
 好マヌ エヤタン 何ト云フカ メニー 此 エツブリー 買フ  
 コンモール 賣ル イラツク 吞ム カイカイ 喰フ ホコト  
 ン、カニユー 持テ來レ シヨロ、エ、ダール 共ニ行ク コワルター

ル 洗濯 オワロカニ 見セヨ カータツタン、ユー 貸セヨ  
 ナリベン 切ル カイラーレ 私見ル コワルローケー 汝見  
 ヨー カーヤール 私持ツ ベーイバー 健康 デルヤーマー 悲  
 ム マンニユー 殺ス コリヤー 虚ヲ云フ エービーヨード  
 ツーグ 破損スル イールージュー 働ク カナニギエン クス  
 グル モワバラ 欠伸 ウーリユーワグ クヤシミ ビヨツコ  
 ビヨコ 咳嗽 ジユリモン 痒キ エシメツク 痛 キジー シ  
 イワク マジヨギヨジヨン シヤツクワ ウ井リワク チクビ  
 ラウラー エクイモチ生ニテ喰ヒシ時ニ用ユ ジヨロパール コ  
 シラヘル インカ 返辞英語ノイエース ジャア 否英語ノノー  
 モール ホントウ(英語ノインジード) シヤンブロツク 早ク行  
 ケ シヤレブドツク 早ク來レ ウーヤ 貿易スル シエルウー

ヤ 返シテ吳レ ギンキンツク 勉強スル ニキンツク 怠ル  
 ヲペンクユー 助ケル アラーレベン 顔 ラージツド チヤマ  
 ー 間投詞 ナルラー 戦争 キン、ラルラー 舞踏

第廿二

島主ハ無上ノ權力ヲ有シ生殺與奪一ニ其意志ノ欲スル所ニ從ヒ又酋  
 長今假リニ酋長ト名ヅクトハ所謂亞弗利加内地若クハ太古蠻族ノ酋  
 長ナルモノトハ性質全ク異ニシテ其嶋主ニ對スル關係ハ一般人民ト  
 等シク奴隸ノ境界ニアリ是ヲ以テ名ハ一島ノ長ナリト雖モ其實唯島  
 主ノ指揮命令ヲ奉シテ之ヲ施行スルノミ、生命ノ安全財産ノ所有等盡  
 ク島主ノ喜怒ニ一任セリ島主ノ各島ヲ巡遊スルトキハ常ニ酋長ノ家  
 ヲ以テ旅館ト爲シ其家具衣服米菓ヨリ其妻妾婦女ニ至ル迄島主ノ欲  
 スル所盡ク之ヲ占有シ自由ニ携帶シ去ルモ各酋長ハ一言モ之ニ抵

抗スルコト能ハズト云フ、又土人ノ島主ニ於ケル其巡遊ニ會ヘバ、必ず  
 刻苦勉勵シテ、物品ヲ製造シ、自家日用ノ什器ヲ除クノ他ハ、盡ク皆島主  
 ノ旅館ニ納メ、之カ保管ヲ托シテ、其怠慢ノ責メヲ免ルト云フ、  
 其他猶島主ノ權力ノ無限ニシテ、土人ノ順從ナルハ實ニ筵クヘキモノ  
 アリ、余カ滯在中、嘗テ「コブラ」ヲ製スルニ當リ、島主ハ全島ノ土人ニ令シ  
 テ、椰子ヲ取ルコトヲ禁シタリシニ、皆能ク其禁ヲ守リテ敢テ一個タモ  
 之ヲ取ラザリシ、又其他犯罪ヲ處スルカ如キ、島主自テ之ヲ縛シ之ヲ罰  
 シ銃殺、絞殺、斬殺、鞭答、其意ニ隨テ之ヲ科スルモ、敢テ憤怒ノ情ナク、嗚喘  
 焉唯鼻息ヲ窺フソミ、其蠢愚實ニ憫ムベシ  
 吾人ハ、怪ム他邦ノ漂泊人ヲ屠殺シテ、其肉ヲ喰ヒ、他島ノ土人ヲ虐殺シ  
 テ、其號叫悲哀ノ聲ヲ聞テ、快樂トナス、此等殘虐、殘虐ナル三万有余ノ蠻民  
 カ、何故ニ島主ニ對シテ、斯クモ從順ナルヤ、又島主ハ如何ニシテ、此等蠻

民ヲ、斯クモ心服セシメシヤ、然レトモ又竊ニ想フニ、生存競爭ハ天理ノ  
 自然ニシテ、社會組織ノ原素ナレバ、此等無智殘虐ナル蠻民ト雖モ、此ノ  
 天理ノ自然ニ背ク能ハザルニ因ルニアラザルカ、果シテ然リトセハ、優  
 者勝者ハ存シ、劣者敗者ハ、勢ヒ此社會ヲ退居セザルヲ得ス、嗚呼太平洋  
 中ノ一孤島、果シテ能ク其美ナル山河ヲ愛護シ得ルヤ、否ヤ、起ヨ吾黨ノ士  
 桃源洞裏ニ春眼ヲ貪ルノ時ニアラザルナリ、進取セヨ三百餘年ノ睡眠  
 ヲ醒シテ南洋ノ寶庫ヲ、

第廿三 島主即位ノ法、及殉死

王位ハ王族之ヲ襲グ、王死スレハ則チ王弟位ニ即キ、其死スルヤ又其弟  
 ニ傳フ、如此シテ王弟盡クルコ及テ、始メテ先王ノ長子ニ傳フ、是レ兄弟  
 繼承ノ例ナリ、然レモ女子ハ王位ニ昇ルノ權ナシト、蓋シ野蠻腕力ノ時  
 代ニ於テ、免カルベカラザルノ制度ナラン

又殉死スヘキモノハ、王妃ニシテ王妃ハ六人アリ其内王ノ遺言ニ因テ其殉死者ヲ定ム、若シ王殉死ヲ命セザル時ハ、新王ノ妃トナルノ例ナリト云フ、何ソ其倫理ニ背戻スルノ甚シキヤ、然レドモ社會ノ原始ト同一ナル蠻族カ、倫理道德ノ何者タルヲ解セザル、亦深ク怪ムニ足ラザルナリ

第廿四 現島主ノ性質及行爲

現今ノ島主ヲポント稱ス其人ト爲リ、野蠻人ノ常トシテ、遠謀深圖ナク、唯意ノ嚮フ所直情徑行シテ、又他ヲ顧ミス、絶エテ廉耻ノ何者タルヲ知ラス、利ノアル所其威嚴ヲ損シ、毫モ羞色アルナシ、平素ハ頗ル溫柔ニシテ、土人ノ之ヲ視ル父母ノ如ク、其命令ノ行ハル、響ノ聲ニ應スルカ如シ、然レトモ無學ニシテ頗ル世事ニ疎ク、外人ニ接スルモ、商船ノ船主ニアラザレハ水夫、然ラサレハ漁獵者ノ徒ノミ、故ニ其待遇ノ冷淡ナル、

舉動ノ卑野ナル、吾人ヲシテ轉々憐愛ハ情ヲ起サシムルモノアリ  
今試ミニ、島主ノ卑陋ナル舉動ヲ摘記セン、彼ハ既ニ述ヘタルカ如ク其部下ノ土人ニ對シテハ實ニ無上ノ權力ヲ有スルト雖モ、其外人ニ接スルヤ、卑劣陋穢毎ニ其衣服什器等反覆熟視シ頻リニ與ヘラレンコトヲ請求シ止マス、一度與フレハ又翌日來リ、強テ物品ノ閱覽ヲ請ヒ、得ル所ナクハ戀戀去ル能ハス、若シ酒食ノ前ニ列ルヲ見レハ頻リニ餓餓ヲ鳴ラシ敢テ動カス、因ツテ一回之ヲ與フレハ、食毎ニ必ス來リ殘肴餘瀝ヲ嘗メテ、欣喜雀躍スル其狀恰モ乞丐ノ徒ト一般、恬トシテ羞色ナシ、去レハ其平時ニ懷抱スル志望ヲ察スルニ、唯金銀貨ヲ畜積スルニ汲汲タルモノ、如シ、故ニ外國人ノ來港スルモノアレハ、其國產ヲ出シテ貨幣ニ代ヘンコトヲ請ヒ、而シテ其交換品ノ金銀貨ニ非ラサルヨリハ之ヲ排斥シテ復々顧ミス、現ニ吾人カ其居ヲ訪タリシ時モ、巨多ノ財物ヲ示

シテ、之カ交換ヲ請ヒ、且自己カ貯蓄セル銀貨二千弗余ヲ出シテ之ヲ請示セリ、又談笑ノ際ト雖、更ニ他ノ話柄ヲ知ラス、唯金銀貨ヲ得ルノ方法如何ヲ問フノミ、若シ一事ヲ依頼スレハ、必ス先ツ其報酬金ノ多寡ヲ問フ、此等卑陋ナル利慾心ハ、實ニ嫌惡スヘシト雖、又吾人一行探檢者ノ爲ニハ、大ニ好便宜ヲ與ヘタリ、請フ余ハ筆ヲ轉シテ其次第ヲ述ヘ、併セテ深ク島主ニ謝セン、

吾人カ乗組シ、エーダ号ハ商業ノ爲メ他ニ航セシテ以テ、一行皆探檢ノ術ヲ失ヒタリ、因テ余ハ島主ニ請フニ船舶ノ航海ニ堪ユヘキモノト、及ヒ一行カ安全ニ探檢ヲ遂クヘキ保護ヲ與ヘラレンコトヲ以テセリ、時ニ島主ハ色ヲ變シテ曰ク、嘗テ我土人等、貴國ノ帆船ヲ燒燼シ、其乗組員ヲ屠殺セシコトアルヲ以テ、貴國怒リテ艦隊ヲ艦シ、其罪ヲ問フノ準備ヲ爲ニアラスヤト、固ク執テ吾人カ請フ所ヲ容レヌ、蓋シ是ヨリ前英國

ノ帆船某號カ、群島ノ海岸ニ漂着セシニ、土蠻ハ擧テ之ヲ燒燼シ、其乗組員ヲ屠リ、其物貨ヲ劫掠セシカハ、英政府其殘虐ヲ惡ミ、艦隊ヲ遣シ砲撃セシニ、島主及土蠻ハ戰慄恐慄爲ス所ヲ知ラス、皆相携ヘテ、深林ニ遁逃シ、其影ヲ止メス、全島寂トシテ人ナキカ如シ、是ニ於テ英兵ハ上陸シテ所在ノ小舎ヲ燒拂ヒ、蹂躪殘ス所ナクシテ、立去リシコトアリ、是ヨリ、以來土人ハ非常ニ軍艦ノ來港ヲ畏レ、外舶ノ來港ト聞ケハ忽チ其色ヲ失ヒ、之ヲ目シテ妖魔ト爲セリ、故ニ今余カ船舶ノ貸與ヲ請フニ常テモ疑懼シテ許サス、余乃チ懇懇他意ナキヲ示シテ、強テ之ヲ乞ヒシカハ、彼漸クニシテ悟リシモノ、如ク、遂ニ余カ請求ヲ容レタリキ、斯ル場合ト雖モ、尙又幾何ノ報酬金ヲ與フルヤト問ヒ、且曰ク貴國若シ艦隊ヲ差向ケントナラハ、希クハ我爲メニ其罪ヲ謝セヨト、斯ク一身ハ疑懼ノ捕虜ト爲リ、猶ホ射利ノ念ヲ忘ル、能ハス、陋ハ則チ陋ナリト雖モ、其熱心思フ

ベキナリ、是ニ於テ島主ハ各酋長ニ對シ、左ノ命令ヲ發シ、吾人ニ保護ヲ與ヘタリ、

這回渡來ノ日本官吏二名ハ何レノ島嶼ニ到ルモ、總テ島主ト全樣ニ取扱ヒ、此二官吏ノ命ニ違ヒ、且害ヲ加ヘントスル者アラハ、屹度嚴罪ニ及ブベシ、

此命令コソ、實ニ吾人一行ノ守護神ニシテ無事ニ探檢ヲ遂クルヲ得タルモ、此守護神ノ威力ト云フヘク、若シ此威力微リセバ吾人モ亦當ニ蠻族ノ腹ヲ肥シ、枯骨永ク絶島ノ砂裡ニ埋没セシモ、未タ知ルベカラサルナリ、

第二十五 群島ノ物産及貿易

群島中最モ大ナル者三十二、之ニ棲息スル蠻族三萬有餘、此ノ多數ノ蠻族カ耕サズ、収メス、飢ヘテ樹菓ヲ拾ヒ、渴シテ噴水ヲ掬シ、一餐一杯、嘗テ

營生ノ困難ナルヲ解セズ、悠悠トシテ一生ヲ送了スル者ハ何ゾ、豈ニ其天産ノ充實シテ勝テ用ユベカラサルノ故ニ非ズヤ、今其重ナルモノヲ舉グレバ、其第一位ヲ占ムル者ハ、則チ南洋ノ特産タル椰子樹ナリ、之ニ次ク者ハ、パンダナ樹、大薯、芭蕉實等ニシテ、尙瑣珠貝、松魚、魚翅、海龜、豚、雞ノ數種アリ、之ヲ現時ノ物産トス、

一 椰子ハ(土語)ニイト稱シ老ヒタルヲ(ワイニ)ト稱ス、土民ノ最モ尊重スル所ニシテ、其菓實ノ未タ熟セザルモノハ核裏ニ一合乃至二合ノ甘水ヲ含ミ、土民最一ノ飲料ニシテ味頗ル美能ク渴ヲ醫スルヲ得ヘシ、又菓實ノ既ニ熟スル者ハ、土人一般ノ食料ニシテ、我米麥ト其用ヲ同フス、其殼ハ以テ薪トナスヘク、其幹ハ以テ家屋船舶ノ用材トナリ、什類器具モ多クハ之ヲ用テ製造シ、其葉ハ以テ筵席ニ作ルヘク、以テ船帆ヲ織ルヘシ、屋ヲ葺キ籃ヲ編ム等、其他數種ノ用ニ供スヘク、毛皮

ハ打テ「キユル」様ノ粉ヲ分離セシメ、軍艦ヲ製造スルノ材料ト爲ス、佛語之ヲ「セルビローザ」ト云ヒ、英語之ヲ「ココナツヒーバー」ト呼ビ、其價歐洲ノ相場一噸六百弗ニ出入セリ、又之ヨリ製スル「コブラ」椰子ノ脂皮ヲ云フ、ハ、本島輸出品ノ第一タリ、土人ノ椰子ニ於ケル其用、斯ノ如ク、其庇蔭ヲ蒙ル、此ノ如シト雖モ、尙四時常ニ翠色ヲ呈シ、舊實下ニ墜スレハ、新實累累トシテ其上ニ結ヒ、空シク地上ニ腐積スルモノ十ノ九ニ居レリ、

二「パンダナ」樹ハ「土語之ヲ」ポツプト「稱ス」其用椰子ニ次ク、其果實ハ食フヘク、其葉ハ細裂シテ帽ヲ造ルヘク、其幹ハ以テ家屋ヲ建設スヘク、其枯葉ヲ聚メテ「寝蓐」ヲ造ルヘシ

三 大碧樹「土人之ヲ」メト「稱ス」ハ、獨木船ノ船底船舷等ニ用ユ、其葉實ハ、土人ノ食料ニシテ椰子ニ次クモノナリ、

四 芭蕉實ハ椰子ノ肉ニ和シ、菓子麵包様ノモノヲ製シ、土人旅行ノ糧トナス、味甘クシテ能ク久シキニ堪ヘ、敢テ腐敗ノ患ナシ、

五 葛「土語」マコモツク草、其葉及花ハ本邦ノ葛ト大ニ異ナル所アレトモ、其根ハ肥大ニシテ製粉ハ、毫モ本邦ノ品ニ異ルコトナシ、

六 海鼠ハ、目今支那ニ輸出スル者アレトモ、其品最上ニ居ルヤ否ヤハ知り難シ、然レトモ「エーダ」號船長カ、土人ニ教ヘテ多ク之ヲ取ラシムルモノハ、皆支那ニ輸入スルノ見込ナリ

七 玳瑁ハ「エーダ」號ノ乗組人某、本島ノ海中其夥多アルヲ發見シ之ヲ採集ヲ試ミタルニ、果シテ多量ノ獲得アリシ、然レトモ、其質最上ナルヤ否ヤハ知ル可カラス、只、其産出ノ多キヲ以テ亦タ産物トナスニ足レリ

八 鱈ハ其輪ヲ取リテ支那ニ輸入ス、群島ノ近海此魚甚タ多シ



九 松魚ハ各島ノ港外ニ多シ、土人粗末ナル釣具ヲ以テ之ヲ釣ルモ尙一時間ニ二十尾以上ヲ釣り得ヘク、其他飛魚ノ如キハ、暗夜篝火ヲ照シ之ヲ漁獵スルトキハ、一時間ニシテ、一百餘尾ヲ獲ルコト容易ナリ

十 海龜 ハピカール、及ジエーム島ニ多シ、人若シ夜來海濱ニ露宿スレハ、海龜ノ群集スルカ爲ニ眠ニ就クコト能ハスト云フ、土人ハ之ヲ捕テ其膏油ヲ搾取ス、

十一 魚介類 モ亦頗ル多ク千種萬類ナリ

十二 帽席類 ハ土人ノ需用多キヲ以テ、剩餘ナシト雖モ之ヲ命テ作ラシムレハ多少ノ輸出品ト爲スコトヲ得ヘシ、

十三 雞豚 ハ其昔住民アリタルモ、今ハ全ク無人島トナリタル島嶼ニ至レハ、非常ニ繁殖シ弓矢鳥銃ヲ用フルモ、容易ニ之ヲ狩リ盡ス

可カラス、

海ニ陸ニ巨利ノ手ヲ下スニ隨ツテ博スヘキ此ノ如シ嗚呼南洋ハ一大寶庫ナル哉而シテ此寶庫ハ、皆開放ノ他ノ採取スルニ一任ス、試ニ見ヨ、土人カ寶庫ニ對スルノ狀況ヲ、嘗テ英國ノ帆走船エーダ號ノ船長某、土人ニ約スルニ次回ノ航海ヲ期シ、「コブラ」ヲ製シ得ヘキ丈、製造シ置クヘキコトヲ以テセリ、期ニ至ツテ再航シ、其數量ノ多寡ヲ問ヒシニ土人ハ恬然答ヘタリ未タ少計タモ製造セザリシト因テ船長ハ更ニ金銀貨及其他ノ物品ヲ出シ「コブラ」ト交易センコトヲ示セシニ土人始メテ製造ニ着手シタリト、其智ナク識ナク懶惰ニシテ生産ノ道ヲ悟ラサル此ノ如シ是故ニ一年間ノ製造總額、及輸出總計ノ如キ、固ヨリ精密ナル統計ヲ得ル能ハスト雖モ、想フニ現今ノ輸出ハ甚タ多量ナラサルベシ、然レトモ其原料ニ富メルハ、實ニ無盡藏トモ稱スベク若シ文明人士ノ續々來リテ製造

ニ從事シ、土人ヲ驅テ之ヲ罷勉セシメバ、他ノ產物ヲ除キ、單ニコブラノ  
 ミヲ以テ、一歲ニ大凡一萬弗以上ノ利潤ヲ得ルカ如キハ、易々タル業ノ  
 ミ、今試ニ土人ノ言ニ徵シテ、其產出額ノ一斑ヲ說カン  
 三十有余ノ群島、三萬有余ノ蠻民中、僅ニ貿易ノ端緒ヲ開クモノハ、只ジ  
 ヤリユート島ノ一アルノミ、歐米人ノ來リテ貿易ヲ爲スモノ皆ナ、此島  
 ニ集ル、然レドモ土人ノ無智ナル一々ニ其何國ノ商船ナルヤ將タ何種  
 ノ商估ナルヤヲ辨知セス、唯獨逸ノスクーテル船二艘、一年三回來航ス  
 ルコトハ、稍ヤ信スベキカ如シ、而シテ其目的タル「コブラ」ヲ輸出スルニ  
 アリト、之レニ由テ考フルニ、他ノ諸商船ノ來航スルモノモ、亦「コブラ」輸  
 出ノ目的ニ外ナラザルコト明ケシ、吾人ハ今シヤリユート島ノミニ於ケ  
 ル「コブラ」ノ產出額及輸出額ヲ概計セントス、讀者幸ニ一隅ヲ以テ他隅  
 ヲ舉ゲヨ

本島ハ群島中ノ大ナル者ニシテ、椰子モ隨ツテ多ク、人口三千ヲ有ス、且  
 ツ近時外人ノ寄留スルアリテ、「コブラ」製造ヲ勸奨セルヲ以テ、其產出額  
 モ亦最多數ナルベシ、土人ノ言ニ徵スルニ、每年來航スル獨逸ノスクーテ  
 ル船二艘、共ニ吾人カ乗込シエーダ號ヨリ、稍小形ナリト、因テ想フニ我  
 カエーダ號ノ積量ハ百噸ナルヲ以テ、假リニ彼ノ獨逸船ヲ各百噸ト定  
 メテ「コブラ」輸出額ノ量ヲ計ルニ、一年三回ニシテ、其積量六百噸ナリ、此  
 他ノ諸船舶モ、多少ノ輸出ヲナスベケレト、今別ニ算入セス、此ノ多數  
 ノ「コブラ」ハ素ヨリ他嶋ヨリ本嶋ニ輸送スルニアラス、縱令他嶋ヨリ輸  
 送スルトナスモ、僅ニ彼ノカノ一船アルノミ、然ルニカノ一積量タル多  
 クモ數十斤ヲ容ル、ニ過キザレハ、此ノ少數ノ輸送、固ヨリ本嶋製出額ニ  
 影響ヲ及ホサ、ルヤ、知ルベシ故ニ、今本嶋ヨリ輸出スル「コブラ」ハ、全ク  
 本嶋ノ產出ニ係ルモノトナスモ、決ノ大ナル差異ナカルベシ、而シテ這

ノ比例ニ因テ各嶋ノ算出額ヲ推算スルトキハ、少クトモ合計四千噸ヲ得ヘク、之ヲ目今ノ相場乃チ一噸三十弗ノ割合ヲ以テ算スレバ、一年間ノ總價額ハ十二萬弗ナリトス

此貴重スベキ多額ノ物産アルニモ拘ラス外人ノ輸入スル物品ヲ問ヘバ其價極メテ低廉ナルモノニシテ其重ナルモノハ酒煙草布類小刃武器等ニシテ猶日用品等モ亦少ナカラス此等ノ物品中最モ土人ノ嗜好ニ適スルモノハ酒、煙草、布、小刀類ニシテ、之ニ次クモノハ武器ナリ、土人ノ通貨ハ一般墨西哥銀ヲ用ユ而シテ一弗以下ノ小數位アルヲ知ラス、故ニ下等ノ「ブランドイ」三瓶ニシテ其價三弗ナリ其他更紗類三四ヤール一弗麥酒四本三弗、下等煙草一斤一弗以上ナリ、又拳銃ノ彈丸七發、軍銃ノ彈五六發ニシテ、各一弗、ブリッキ製湯罐一箇一弗、下等皿二枚一弗、本込軍銃七連發ノモノ、五十弗、一發未込ノ馬上銃十五弗、下等茶碗三ヶ一

弗以上ナリトス、其他日用品ノ不廉ナル亦推知スルヲ得ヘシ  
去レバ、金銀通貨ヲ以テ彼等ノ「コブラ」ヲ買ハントスレハ、甚タ高價ナレトモ彼等ノ嗜好スル物品ト交換セハ又實ニ其廉價ナルニ驚カザルヲ得ス、試ニ想ヘ「コブラ」一噸ノ價三十弗トセハ、下等「ブランドイ」二十瓶ヲ或ハ下等煙草三十斤ヲ以テ交換シ得ヘシ、故ニ獨逸商船ノ交換ヲ爲スモ常ニ物品ヲ以テセリ、此ヲ以テ計レハ全群嶋「コブラ」ノ産出總額四千噸ト假定シ、一噸三十弗トセハ十二萬弗ノ巨額ニ昇ルベキモ其交換スベキ雜貨タル歐米市場ノ相場ニテ僅ニ四五弗ニ過キサリナリ、又廉ナリト云ヘベシ、而シテ彼土人ハ一モ其損益上ニ介意セス其天産充實ノ寶庫ヲ開放ノ他ノ採取ニ一任ス其益愚實ニ憫笑スベキナリ知ラス天此寶庫ヲ以テ吾人ニ附與セントノ意ナルヤ是レ併シナカラ「コブラ」ニ就テノ概説ノミ若シ夫レ遺利漏益ト云フヲ細ニ研究セバ、第一塩田ヲ

起スコト適當ノ業ナリトス位置熱帶ニアリ海水ハ鹽分ヲ含有スルコト甚シク特ニ海濱ニ一帶ノ白砂アリ隨處ニ鹽田ヲ作ルベシ又耕耘ニ適スルノ場漁業ニ從事スベキノ處苜蓿モ興スニ從テ巨利ヲ博スベキノ地少ナカラス是ニ於テカ、鹽、雜穀、砂糖、牛、羊、乾魚等ノ後來ニ向ツテ製産物タルヲ知ルヘシ

國別相場表

物名	數量	價格	國別相場
羽毛類	一噸	四十四弗八十錢	橫濱
大瑣珠具	一噸	五百六十弗	歐洲
小瑣珠具	一噸	四百弗	歐洲
雞卵類	一個	三錢	米國

「セルヒーローザー」	一噸	六百弗以上	橫濱
「フコブラ」	一噸	十八磅	全
樂園鳥ノ羽毛	一毛	一弗乃至二弗	歐洲
樂園鳥	一羽	百弗乃至二百弗	歐洲
魚油		未詳	全
鳥油		未詳	全
鯨鯨	百斤	六十弗目白鯨鯨 三十弗通常鯨鯨	橫濱
海鼠		未詳	全
海綿		全	全
木材		全	全
珠		全	全
芭蕉果實		全	九十七

「パンダナ」		全	
藍甲	一枚小	金壹圓	全
檸檬		金五六圓	上海
		未詳	
海龜	一個小	金二圓許	橫濱
	一個大	金三四圓	
椰子果實	一個	金十錢至金十五錢	歐洲

吾親愛スル讀者諸君ヨ、諸君ハ既ニ各島產物ノ、卓巨ナル、貿易ノ幼稚ナル、蠻族ノ未タ生産力ヲ識ラザル有様ヲ了セシナラン、諸君ハ既ニ此等ノ諸項ヲ了セリ、然ラハ則チ如何ナル感觸ヲ湧出スルカ、吾人ハ猶豫ナク言ハンノミ、愛國ナル諸君ノ胸裡ニハ、憤然勇往シテ取ルヘシトノ一念ナルコトヲ、吾人モ亦信シテ疑ハザルナリ、何トナレバ、南洋ノ貿易開拓占領ハ一個有益ナル事業、特ニ後來我日本帝國民ノ福利消長ニ關係

スル事業ナリト信スレバナリ、請フ試ニ之ヲ論セン、我國明治十五年以降、輸出額ノ輸入額ニ超過スル、年一年ヨリ増進スル傾向アルハ、以テ幾分カ海外貿易ノ發達セルヲ証スヘク、益進ンテ自國ノ殖産ヲ興シ、輸出ヲ獎勵センコト勿論ナリ、然リト雖モ國各其風土ヲ異ニシ、生産スルモノアリ、生産セザルモノアリ、所謂山西ノ穀、遼ハ山東ノ所用ニシテ、江南ノ丹砂ハ江北ノ所珍ナリ、是レ將々有無交通ノ自然ニ起リ貿易事業ノ止ムヲ得ザルニ發達スル所以歟、見ヨヤ我國ニ輸入スル貨物中ニ在ツテ、現ニ南洋諸島ニ產出シ或ハ後來製出スベキ、彼レ砂糖類ノ輸入額ハ幾何ツヤ、彼レ羽毛藍甲椰子油等ノ輸入額ハ幾何ツヤ、吾人ハ外國貿易輸入表ノ一節ヲ掲ケテ其額ノ少ナラザルヲ示サン



モ可ナリ、協會、ソロモン諸島モ可ナリ、此等ノ諸島ハ、幸ニモ、彼レ冒險ナル、大膽ナル、歐米人ノ未タ先鞭ヲ着ケザルナリ、依然トシテ、野蠻人ノ巢窟ナリ、信天翁、大蝙蝠ノ棲所ナリ、是ニ於テ乎、吾人日本男兒ハ、奮然トシテ此間ニ往來シ、諸嶋ヲ占領シ、開拓シ、起業シタランニハ、今日迄年年輸入ヲ仰カザルヲ得ザル、巨萬ノ砂糖類ヤ、羽毛類ヤ、他國人ノ手ニ製出セラレズ、自國人ノ手ニ製出スルニ至ラン、此ノ如クナレバ、其浩益タル果ノ幾何ソヤ、當ニ之レノミニアラズ、此等ノ諸嶋ハ、豪洲ト我國トノ間ニ、點點碁布スルノ諸嶋ナリ、濠洲ト我國トノ貿易ハ、後來頻繁ヲ來ス、ベキ識者ノ豫期スル所ナリ、若シ斯ノ曉ニ到ラハ、吾人ノ同胞ハ早ク既ニ此等ノ諸嶋ニ、播越シ、延蔓シ、往來寄泊ノ本國船ヲ、愛護シ、應援シ、以テ南溟航路ノ障害ヲ掃蕩セバ、其勢力果シテ幾何ソヤ、是レ吾人ガ、讀者諸君ノ感想ヲ疾呼シテ、進ンテ取ルベシトノ、一語ヲ以テシタル、所以ナリ、

然ラハ則チ、南洋諸島ハ、眞ニ取ルコトヲ得ベキ嶼、然リ然リ、然ト雖モ、吾人ハ唯今日ヲ以テ、然リト爲モノナリ

## 第七章 結論

日本人ハ將ニ起ントス、三百年來挑源洞裏ノ夢、己ニ覺タリ、夫レ然リ、覺レハ起チ、起テハ走ル、此レ勢ノ然ラシムル所ニシテ、於是乎確呼トソ根脚ヲ立テ、斷乎トシテ向フ所ヲ定メスンバ、則チ蹶轉陷落ノ憂、其レ終ニ免カル可カラサル歟、

回顧スレハ三百余年ノ昔、彼德川ノ祖、家康カ、應仁以來、紛糾爭奪ノ極ニ振出し、詰据粹勵シテ、漸ク統一ノ功ヲ奏セルヤ、主トシテ基督教ヲ禁遏シ、以テ國教ヲ建テ、大船巨舶ヲ造ルコトヲ禁シ、以テ通商貿易ノ道ヲ収縮シ、其極以テ吾人日本男兒ノ腦漿ヨリ、千有年間養ヒ得タル、冒險企業ノ志、遠征雄飛ノ氣ヲ驅除消盡シ去ルニ至レリ、是併シナカラ、乱世擾

代ノ國民カ兇儉危譎ニシテ、統御ニ困難ナル。撥亂反正ノ主カ、治安守成ノ政策ニ於ケル、一定ノ道ヲ示シテ、其崇奉ヲ歸一セサルベカラス。自由ノ利器ヲ去ツテ、其雄飛ノ氣ヲ奪ハサルヘカカラス。安倫ノ術ヲ教ヘテ、冒險ノ志シヲ抑ヘサルヘカラス。之ヲ約言スレハ、國民一般ノ智識ヲ暗マシテ、之ヲ愚ニシタル者ナリ。復タ萬己ムヲ得サルノ、政策ナリト謂ツ可シ。然ト雖モ、安逸ハ人情ノ好ム所、苟且ハ人事ノ易キ所、安逸苟且困蹙ノ久レキ、彼レ河伯カ、僅ニ上下數百里ニ來往シテ、漫然階大ナリト、誇ルト一派、六十余洲ヲ以テ限リナキ大世界トナシ、壺中ノ天地ニ跼蹐シテ、敢テ究屈トモ思ハス、果テハ明治ノ今日ニ至リ、端ナクモ、歐洲ノ大風潮ニ震蕩セラレ、俄然トシテ三百年來ノ長夢、將ニ攪破セントハ、噫吾人日本ハ實ニ覺メタリ、覺レハ起テ、起テハ走ル、是勢ノ然ラシムル所ナリ、見ヨヤ道兩三年、吾人日本人ハ、近クハ北海道ニ、朝鮮沿岸ニ、遠クハ南米

諸洲ニ、南洋諸島ニ、殖民シ貿易シ、一大事業ヲ異方遯陬ニ建テ、一舉シテ巨万ノ富源ヲ興サント希圖スル者ノ如シ。吾人ハ誠ニ其志業ノ偉大ナルヲ嘆賞スルニ堪ヘサルナリ、吾人ハ誠ニ其目的ノ成就センコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ、然ト雖モ、其起ルヤ泰西風潮ノ震蕩ニ由ツテナリ、其覺ルヤ三百年來、墮睡昏夢ノ反動ニ由ツテナリ、彼レ泰西人ノ數十年來、印度ニ、濠洲ニ、往來シ、失敗シ、幾多ノ危險ト、困難トヲ犯シテ、漸ク以テ今日ノ境遇ニ、到達シタルカ如キ、歴史的經驗ノアルニアラス、去レハ、吾人ハ、其志業ノ偉大ナルヲ、賞嘆スルト全時ニ、或ハ輕擧ノ利アラスシテ、而シテ、躓轉陷落ノ恐レアルニ堪ヘサルナリ、近來世人カ噴々唱道スル、海外事業ニ付、考察スルニ、吾人ハ南米秘魯ニ於ケル、銀礦ノ巨大ナルヲ聞ク、然レトモ、未タ諸事ノ經驗ナキ日本人ガ、微微タル資本ヲ以テ、之レニ從事シ、果シテ目的ヲ達シ得ルヤ、否ヤ、知ラ



サルナリ、舊開國人ノ新開國ヲ求メテ、之レニ移住スルハ、現今世界ノ大勢ナリ、然レトモ未タ堅忍不移ニシテ、而モ奸譎猾獮ナル、彼レ歐米人ト競争シテ、果シテ勝利アルヤ、否ヤ、知ラサルナリ、這競争世界ニ立ツテ、後レ馳ニモ、嶄然トシテ、日本男兒ノ頭角ヲ顯ハシ、廣漠無主ノ地ヲ擇ビ、新日本ヲ作ルノ快絶ナルヲ知ル、然レドモ、未ダ預メ中途ニ起ルヘキ、出來事ヲ覺悟シテ、能ク不撓不屈ナルヤ、否ヤ、知ラサルナリ、這數個ノ資格ハ、吾人實ニ今日我日本男兒ノ企業家ニ保セザル所ナリ、且ツヤ我國百般ノ事業タル、其既ニ興リタルモノト、將ニ興ラントスル者ヲ觀ルニ、其成否ハ、概テ其ノ目的方法ノ如何ニ關セスシテ、發起者其人ノ如何ニ線因スルモノ、如シ、今茲ニ一事業ノ企アリト假定セヨ、先ツ世人ハ其發起者ニ着目シテ、曰ク、彼レ何縣ノ出身ナリ、是迄何等ノ位置ヲ有セリ、斯人ニシテ此ノ企アル、其事必ス成ラント、又曰ク、彼何縣ノ出身ナルヤ、今日

迄何等ノ位置ヲ有スルヤ、斯人ニシテ此ノ企アル是レ必ス投機ナリ、冒險ナリト、一概シテ之ヲ山師視シ、未タ其事ノ緒ニ就カザルノ前、業ニ己ニ其成敗ヲトスルカ如キ速了斷定ヲ爲ス者アリ、嗟何ソ其奇怪ナル哉、是ヲ以テ天下ノ事業ハ、舉テ之ヲ彼種屬ノ士人ニ歸セントスルノ觀アリ、何ソ圖ラン、漸ク世進ノ興隆ト共ニ、早ク既ニ這脈フヘキノ顯像ヲ今日ニ呈シ來ラントハ、這脈フヘキノ顯像タル實ニ企業家ノ大志ヲ阻害スル者ナリ、冒險家ノ雄圖ヲ遮斷スル者ナリ、何トナレハ企業家冒險家ト稱スルモノハ、多ク此種族ニ在ツテ、彼種族ニ非レバナリ、然レトモ彼レ奇怪ナル速了斷定ノ、往々適中ヲ免カレザル、又萬止ムヲ得ザル者アリ、看ヨヤ近來民間ノ有志ニシテ、時勢ニ感奮シ、獨立震起シ一大事業ヲ發起セントスル、其思想ノ單純ナル、其志氣ノ急促ナル、深ク謀リ、廣ク募ルコト能ハス、未タ其根據ノ堅確ナラザルニモ拘ラス、早クモ建業ノ旌旗

ヲ翻スヲ以テ、中途ニシテ勁風颯颯ノ推折サキセスル所タル少カラストセス。吾人ハ深ク志士ノ爲メニ、否深ク天下興隆ノ氣運ノ爲ニ悲ムナリ、嗟、民間ノ志士ヨ、志士ノ目的ハ善ナラザルニ非ス、志士ノ方法ハ巧ナラザルニ非ス、志士ハ只一個自己カ根據ノ堅確ナラザルヲ憂フル而已矣、是レ併ナカラ獨リ民間志士ノ罪トスベカラザルナリ、前既ニ述タルカ如ク、今日我國ノ事業、眞個ニ事業トシ、見ルベキ者ハ、擧ケテ之ヲ二三有、力者ノ手ニ屬スルノ有様ニ非スヤ、然ラザルモ、彼種族ヲ以テ、成立シタルニ非スヤ、彼種族ノ士人ハ、既ニ社會ノ與望ヲ繫ケリ、既ニ守成ノ位地ヲ有セリ、夫然リ、與望守成ノ占領セシヨクハ、自然ニ他人ノ、否、後進者ノ自己カ占領地ニ侵入センコトヲ欲セサルナリ、其欲セサルハ自然ノ勢ニシテ設令タテマ民間ノ志士カ、一派特色ノ考察ヨリ、貴重スベキ奇策ヲ、此間ニ提出スルモ、誰カ之ヲ獎勵保護スル者ツ、冷淡看過シ、敢テ顧ミサルモノ、如ク、否、

實ハ中心ニ一驚キョウヲ喫スルモ、強テ之ヲ其粹色ニ勸カザルナリ、是ニ於テカ、志士タルモノハ沸然トシテ袖ヲ拂ヒ、退ヒテ之ヲ他ノ多數ノ人衆ニ謀ル、然ルニ這多數ノ人衆ハ、概テ怪奇ナル速了斷定ヲ妄認ボウニンスルモノナリ、雷全スルモノナリ、故ニ其言フ所ニ駭コトカサレバ、之ヲ侮ルノミ、世間既ニ斯ノ如クナレバ志士タル者ハ、其勢自ラ奮震ケン厥起ノ擧ニ出テザルヲ得ス、何トナレハ遲疑猶豫ノ間、時機ノ既ニ熟シテ、期會ノ將ニ去ラントスルノ恐レアリ、是其根據ノ未タ確定セサルニモ拘ハラズ、謀圖ノ未タ熟セザルニモ拘ハラズ、暴發シテ殘念ニモ中途ニ挫折スルノ免レサル所ナリ、噫々我國ノ企業家タル者、亦難ヒ哉。然ラハ則チ如何セハ可ナラン、只協同一致結合ノ精神ヲ發起誘導スルノ一方アルノミ、今將ニ一事業ヲ興サント欲ス、大トナク、小トナク、盡ク一致結合ノ力ニ依頼センカ、其事大ナレハ隨ツテ大ナル結合ヲ得ヘク、

其事小ナレハ亦小ナルノ結合ヲ得ヘク、左スレハ、大ハ大ニ、小ハ小ニ、應分ノ資力運動奏功スルコトヲ得ヘシ、所謂協同一致結合力ナル者ハ、一小ヲ聚合シテ一大ヲ形成スル便方ニシテ、百圓ノ資金家ヲ十聚スレバ、一千圓ノ運動ヲ成シ得ヘキ者ナリ、這勢力ヲシテ民間ニ普及ナラシムレハ以テ彼レ一種ノ有力者カ私擅ノ占領ヲ防クベキナリ、以テ彼レ世間一般ノ速丁漸定ヲ破ルベキナリ、以テ民間企業家ノ意趣運動ヲ自由ナラシムベキナリ、吾人ハ實ニ此勢力ヲシテ普及ナラシメンコトヲ祈ルモノナリ、

之ニ反シ、現今社會ノ事業ニシテ、其精神其資力、之レ出スンバ、縦令如何ナル事業ノ興起スルモ吾人ハ甚タ喜ハザルナリ、否、吾人ハ國家現今隆興ノ氣運ノ爲ニ早ク既ニ斯ル退兆ノ萌芽ヲ發生スルヲ憂慮ニ堪ヘサルナリ

諸士ヨ、今日ハ是將ニ起ントスルノ日本ナリ、諸士ハ是レ將ニ起ントスル、日本ノ先唱者ナリ、此先唱者ニシテ、而シテ備ヲ作り、例ヲ出スカ如キアラハ、我新、日本ノ後來、蓋シ知ルベキノミ

今夫レ、南米諸洲、ニ南洋諸嶋ニ、尙其他ニ、吾人日本人カ、新事業ヲ起スベキノ地ハ、多カラストセス、然リ而シテ、這等各所ニ雄飛セントスル、諸士ノ此ニ出スシテ、依然トシテ彼ニ出テ、彼レ有力者ガ、自己獨立ノ事業トシ、特約ヲ設ク規定ヲ訂シ、自由渡航ハ以テ外交上ニ害アリト爲シ、事業上ニ弊アリト爲シ、其行爲ニ關涉シ、其運動ニ關涉シ、之ニ移住ヲ許ス者ハ概テ指役驅馳スベキ、力役社會ノミニ限ルアラハ幸ニ其事業ハ隆盛ナルニ到ルモ其利益ハ僅ニ社會ノ一小部分ニ過キザルナリ、其レ此ノ如クナレハ我日本男兒ノ名稱ハ勞働者ナリ、服從者ナリ、獨立ノ氣象ナキ者ナリ、自由ノ行爲ナキ者ナリト、指命吹張セラレ其價值ハ彼レ支那人

ノ後へ、印度人ト併稱セラル、ニ至ラン歟吾人ハ此等ノ種族カ、幾億万人、豊美有益ナル新開國ニ移住スルモ喜バザルナリ、否、大日本帝國ノ名譽ノ爲ニ慨嘆ニ堪ヘザルナリ、是ニ於テ乎、彼民間ノ志士タル者多年自己ガ胸裡ニ鬱勃スル懷抱ヲ行フ唯ダ拔擢功名ノ一手段アルノミ、彼レ拔擢功名ナル者ハ固ヨリ一時ノ究策ナリ、憤々トシテ億俸ヲ万ニ望ミ毎毎失敗ヲ意外ニ取ルガ如キ後進者ハ前車ノ覆轍ニ恚リ以テ冒險企事ノ到底目的ヲ達シ得ベカラザルモノナリトノ、斷念ヲ抱カシムルニ、至ラハ則チ維新以來、折角ニモ今日ニ興起セントスル、氣運ノ再ヒ衰替ノ傾向ヲ呈センモ、亦未タ知ルベカラザルナリ

諸士ヨ、遠征雄飛ハ十九世紀、下半期ノ大勢ナリ南洋ノ貿易開拓ハ現今社會ノ一大急務ナリ、吾人日本人ハ知ラス、識ラス、大勢ノ仕配スル所ト爲リ特ニ急務ヲ處弁セントスル大切ナル時期ニ到着セリ、故ニ吾人ハ

平生南洋ニ對スルノ意見ヲ述ヘ、併セテ本論ヲ以テ一篇ヲ結ヘリ、嗚呼是レ亦三ヒ志ヲ致スノ意歟

跋南洋志

予友野澤君。近著一書。題云南洋志。予受讀之。以快絕之筆。行雄壯之論。咿唔間。使人恍然自失。惟讀此書。而不一瞥南洋之天者。所謂眼底無淚。皮下無血者歟。非邪。

昔者。閣龍發見亞米利加大洲也。訛傳百出。人人張大其事。曰。錫連山所至在。

二  
金剛丘所望輝。其後於英國。果有南海サウスシー貿易會社コンバニ之起。當時英人之機智。赴利如猛獸鷺鳥。不問其業。不訊其時。爭投資於南海貿易會社。一時以致隆盛。雖然。元是出世潮之虛勢。成投機者權變。非固有歷史的經驗矣。於是乎。恐惶一來。忽焉傾產覆家者。不知其幾千人。商業社會爲之索然。英人稱之南海荒サウスシーラッパル。是實雖出時勢所使然。不有復不職由英人之不嘗明南米諸洲地理人情風土之罪也矣。

近來於我國。頗有說南洋貿易開拓之利者。南洋貿易開拓者。利則利也。然其所嗽々。概耳食徒耳。而或不能無追風捕影之譏。當是時也。非詳悉南洋之現狀則其勢顯出第二南海荒サウスシーラッパル於我國。亦

未可知矣。是野澤君所以有此編也。嗚呼。暗夜照航路者。燈臺也。大洋示方向者。羅針盤也。然則。南洋志。於我南洋。登臺歟。將羅針盤歟。

四

維時憲法發布一年庚寅六月

於東都城北晚翠軒

竹內邦太郎識

7/35

明治廿三年六月十七日印刷  
同年同月十八日出版

定價貳拾五錢

東京神田區

今川小路一丁目三番地寄留

山梨縣平民

編輯者 野澤藤吉

東京日本橋區

住吉町十八番地寄留

千葉縣平民

發行人兼印刷人 齋藤岩次郎

5/188

12



~~18~~ 292.4  
~~168~~ N.98

